

岩手県総合計画審議会

令和2年度第5回県民の幸福感に関する分析部会

日時：令和2年10月28日(水) 14:30～17:00

場所：エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 令和2年度 年次レポート（案）について
- (2) 県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについて
- (3) 「幸福について考えるワークショップ」について
- (4) その他

3 閉 会

配付資料一覧

- 資料1 令和2年度 年次レポート（案）について
- 資料2 補足調査の見直しについて
- 資料3 「幸福について考えるワークショップ」について
- 資料4 令和3年度開催スケジュールについて
- 参考資料 幸福について考えるワークショップの手引き

令和 2 年度
「県民の幸福感に関する分析部会」
年次レポート（案）

令和 2 年〇月

目次

第1章	本報告書の内容	1
第2章	令和2年度の分析事項	1
第3章	調査結果	
1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	3
1.1	調査目的及び対象等	
1.2	調査結果の概要	
2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	7
2.1	調査目的及び対象等	
2.2	調査結果の概要	
第4章	分析結果	
1	主観的幸福感について	15
2	分野別実感について	17
2.1	実感が低下した分野	
2.2	実感が上昇した分野	
2.3	実感が横ばいの分野	
第5章	まとめ	
1	主観的幸福感について	33
2	分野別実感について	33
<参考>		
1	県民の幸福感に関する分析部会運営要領	39
2	県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿	40
3	令和2年度における部会開催状況等	40

別冊【資料編】

参考資料1	「県の施策に関する県民意識調査」調査票
参考資料2	「県の施策に関する県民意識調査」結果
参考資料3	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」調査票
参考資料4	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」結果
参考資料5	「県の施策に関する県民意識調査」属性別平均点
参考資料6	「県の施策に関する県民意識調査」属性別分析結果
参考資料7	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」回答意見とりまとめ結果

第1章 本報告書の内容

県では、2019年3月に「いわて県民計画(2019～2028)」を策定しました。

本計画では、県民の幸福を守り育てることを基本目標に掲げ、県民の幸福に関連する10の政策分野を設定するとともに、それぞれにいわて幸福関連指標を設定して取組を展開することとしています。

計画の推進に当たっては、政策評価に基づく「政策推進プラン(2019年度～2022年度)」の進捗管理を行うこととしており、いわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識や、社会経済情勢も踏まえた総合評価を行い、政策立案に反映させていくことが必要です。

そこで、岩手県総合計画審議会において、令和元年6月に「県民の幸福感に関する分析部会」(以下「分析部会」という。)を設置し、「県の施策に関する県民意識調査」(以下「県民意識調査」という。)で把握した県民の幸福に関する様々な実感を分析することとしております。

この報告書は、令和2年度における分析部会の分析結果をとりまとめたものです。

第2章 令和2年度の分析事項

県では、県民の主観的幸福感や幸福に関する分野別実感について、毎年、無作為抽出により5,000人の対象者を選定して行う県民意識調査により把握しています。

しかし、当該調査のみでは、分野別実感の変動要因を推測することは困難であることから、昨年度、分析部会において、調査対象者を固定し継続して調査を行うことで、県民意識調査を補足する「県の施策に関する県民意識調査(補足調査)」(以下「補足調査」という。)の設計について検討を行い、令和2年1月の県民意識調査と同時期に、平成31年の県民意識調査の回答者のうち600人を対象として補足調査を実施しました。

表1 県民意識調査と補足調査

	県民意識調査	補足調査
目的	「いわて県民計画(2019～2028)」に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること	県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと (対象者を固定することで、対象者の実感が前回調査から変動した理由を把握し、県民意識調査の分野別実感の変動した要因を推測する)
対象	県内に居住する18歳以上の男女	県内に居住する18歳以上の男女
調査人数	5,000人	600人(各広域振興圏150人)
抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出(回答者は毎年変更)	基準年(平成31年)の調査回答者から選定し、毎年固定
調査時期	毎年1月～2月	毎年1月～2月

今年度の分析部会では、県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、分析手法の検討を行い、以下の方法により分析を行いました。

- 令和2年県民意識調査結果の属性分析
 - 県民意識の属性別での特徴を把握するため、直近となる令和2年県民意識調査結果を対象に、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析
- 平成31年～令和2年県民意識調査結果の時系列分析
 - ・ 県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年から令和2年までの県民意識調査結果から、2時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を分析
 - ・ 2時点間で実感が低下した分野について、補足調査において当該分野別実感が低下した人の回答理由等から、実感が低下した要因を推測
- 平成28年～令和2年県民意識調査結果の時系列分析
 - 平成28年から令和2年までの県民意識調査結果から、分野別実感の平均値が一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性について、補足調査において当該属性に該当する人で、低値にあつては、「感じない・あまり感じない」、高値にあつては「感じる・やや感じる」と回答した理由等から要因を推測

表2 分析等に係るスケジュール

年度	調査		分析
平成27年度 (H28.1)～	幸福実感に係る調査を開始		—
令和元年度			<ul style="list-style-type: none"> ・ 補足調査の設計 ・ 過去の県民意識調査の分析
令和2年度	県民意識調査	補足調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和3年度			<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和4年度			<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・ 分野別実感と「いわて幸福関連指標」との関連性の検討
令和5年度以降			—

第3章 調査結果

1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

1.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 「いわて県民計画（2019～2028）」に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和2年1～2月（毎年調査）
- ⑦ 有効回収率 67.7%（3,387/5,000人）
- ⑧ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	1,494	(44.1)
女性	1,875	(55.4)
その他	8	(0.2)
不明	10	(0.3)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	966	(28.5)
県南広域振興圏	993	(29.3)
沿岸広域振興圏	837	(24.7)
県北広域振興圏	591	(17.4)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	43	(1.3)
20～29歳	160	(4.7)
30～39歳	273	(8.1)
40～49歳	432	(12.8)
50～59歳	598	(17.7)
60～69歳	805	(23.8)
70歳以上	1,028	(30.4)
不明	48	(1.4)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	291	(8.6)
家族従業者	136	(4.0)
会社役員・団体役員	198	(5.8)
常用雇用者	885	(26.1)
臨時雇用者	432	(12.8)
学生	56	(1.7)
専業主婦(主夫)	416	(12.3)
無職	751	(22.2)
その他	139	(4.1)
不明	83	(2.5)

()内は%

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、内訳の計が100%にならない場合があります。

1.2 調査結果の概要

① 主観的幸福感（設問：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

県全体の主観的幸福感については、幸福とを感じる（「幸福だと感じる」又は「やや幸福だと感じる」と回答した人が 56.2%（前年調査：52.3%）、幸福と感しない（「幸福だと感しない」又は「あまり幸福だと感しない」と回答した人が 17.6%（前年調査：19.3%）となっており、幸福と感している人の割合は上昇しています。

また、主観的幸福感について、「幸福だと感じる」から「幸福だと感しない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.48点（前年調査：3.43点）となりました。

図1 【県民意識調査】主観的幸福感（県計）の推移

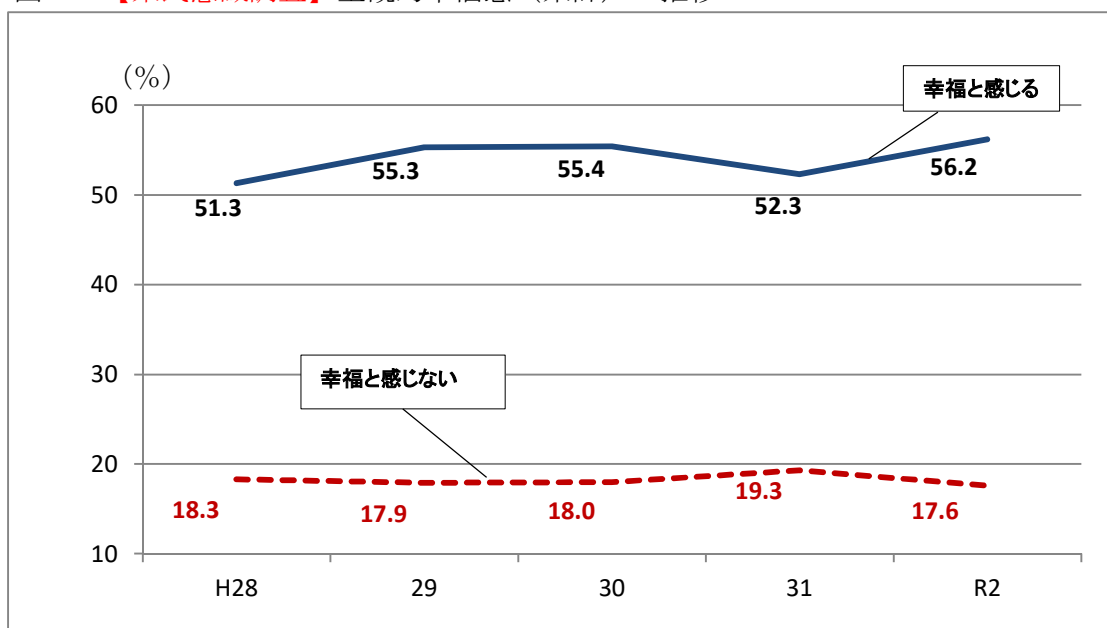
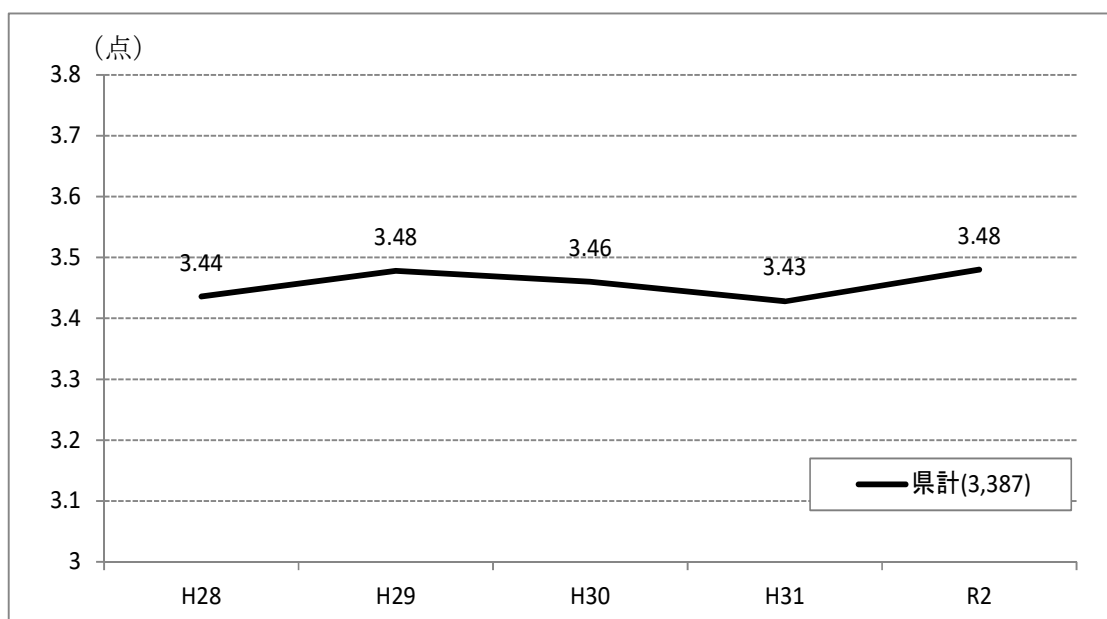


図2 【県民意識調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移



② 分野別実感（設問：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12 分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が4点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も基準年（平成31年）と同様に高くなっている一方で、「収入・所得」の実感は引き続き低くなっています。（下図は、令和2年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理しています。）

図3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況

項目	調査年	平均値	回答割合 (%)						
			感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	わからない	不明
1 自然に恵まれていると感じますか	R2	4.16	40.0	38.7	11.6	3.4	1.2	2.1	1.7
	H31	4.21	40.6	38.7	9.5	3.7	1.2	2.2	1.7
2 家族と良い関係がとれていると感じますか	R2	3.86	30.1	35.8	18.4	6.5	4.0	1.5	1.5
	H31	3.84	29.5	33.0	19.7	5.7	4.4	3.5	1.5
3 お住まいの地域は安全だと感じますか	R2	3.66	19.4	40.3	23.4	7.5	4.4	2.2	2.2
	H31	3.82	23.7	40.5	20.1	5.9	2.7	3.4	2.2
4 仕事にやりがいを感じますか	R2	3.38	15.5	24.4	26.3	9.2	7.4	12.9	2.2
	H31	3.54	17.6	25.6	19.3	8.5	5.6	16.2	2.2
5 住まいに快適さを感じますか	R2	3.29	15.8	30.5	25.0	14.6	9.7	1.5	1.5
	H31	3.34	14.5	32.6	25.8	12.7	8.6	2.0	1.5
6 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	R2	3.25	10.4	27.3	31.4	12.3	6.7	8.6	1.5
	H31	3.28	9.7	26.6	30.6	11.8	5.2	11.5	1.5
7 地域社会とのつながりを感じますか	R2	3.16	9.7	30.5	26.9	17.4	8.9	3.4	1.5
	H31	3.35	12.2	32.6	26.8	13.5	5.9	5.2	1.5
8 ころよからだが健康だと感じますか	R2	3.15	11.7	31.1	23.4	20.5	9.7	1.4	1.4
	H31	3.00	10.7	25.5	25.3	18.5	14.1	2.0	1.4
9 子どものためになる教育が行われていると感じますか	R2	3.09	5.2	19.5	30.6	12.5	5.3	21.9	1.4
	H31	3.10	4.1	17.9	28.5	10.9	4.4	27.6	1.4
10 子育てがしやすいと感じますか	R2	3.07	5.7	20.4	29.7	12.5	7.0	20.0	1.4
	H31	3.08	5.4	14.9	25.3	9.8	5.5	28.7	1.4
11 余暇が充実していると感じますか	R2	2.93	9.2	24.3	25.6	22.6	13.3	1.8	1.8
	H31	3.05	9.8	23.5	30.3	16.7	11.1	4.5	1.8
12 必要な収入や所得が得られていると感じますか	R2	2.56	6.7	16.9	22.7	20.7	25.1	4.6	1.8
	H31	2.65	7.5	18.5	18.2	19.1	22.4	8.7	1.8

「平均値の算出方法について」
「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数（「わからない」、「不明（無回答）」を除く。）で除し、数値化したもの。

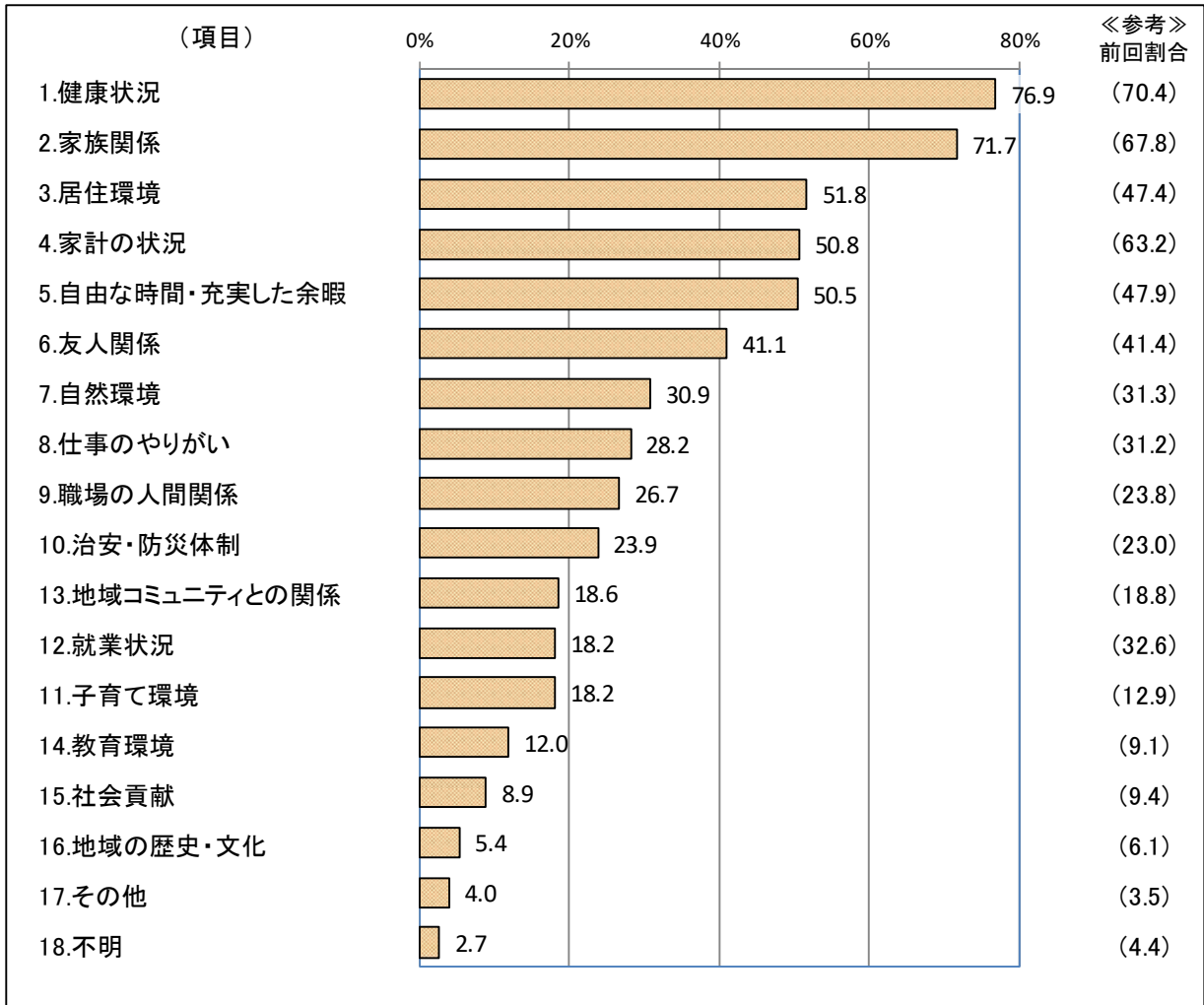
※ 単純集計結果

③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問：あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、前年調査と同じく、「健康状況」及び「家族関係」が特に高い結果となっています。

図4 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況



※ 単純集計結果

2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

2.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 「いわて県民計画（2019～2028）」を着実に推進していくため、「県の施策に関する県民意識調査」で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくことを目的に、調査対象者を固定し複数年継続して調査を行うパネル調査を実施するもの
- ② 調査対象 岩手県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 600人（各広域振興圏150人）
- ④ 抽出方法 平成31年県民意識調査の回答者から抽出（毎年固定）
（各広域振興圏150人、概ね各年代100人）
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和2年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）
- ⑦ 有効回収率 96.8%（581人/600人）
- ⑧ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	295	(50.8)
女性	269	(46.3)
不明	17	(2.9)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	10	(1.7)
20～29歳	47	(8.1)
30～39歳	85	(14.6)
40～49歳	99	(17.0)
50～59歳	109	(18.8)
60～69歳	110	(18.9)
70歳以上	104	(17.9)
不明	17	(2.9)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	117	(20.1)
100万円～300万円未満	282	(48.5)
300万円～500万円未満	93	(16.0)
500万円～700万円未満	37	(6.4)
700万円～1000万円未満	14	(2.4)
1000万円～1500万円未満	4	(0.7)
1500万円以上	2	(0.3)
不明	32	(5.5)

【居住形態別】	回答者数	割合
持家（一戸建て）	449	(77.3)
持家（集合住宅）	10	(1.7)
借家（一戸建て）	31	(5.3)
借家（集合住宅）	64	(11.0)
その他	11	(1.9)
不明	16	(2.8)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	147	(25.3)
県南広域振興圏	147	(25.3)
沿岸広域振興圏	144	(24.8)
県北広域振興圏	143	(24.6)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	45	(7.7)
家族従業者	12	(2.1)
会社役員・団体役員	30	(5.2)
常用雇用者	211	(36.3)
臨時雇用者	88	(15.1)
学生	15	(2.6)
専業主婦（主夫）	46	(7.9)
無職	87	(15.0)
その他	25	(4.3)
不明	22	(3.8)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	74	(12.7)
2人	199	(34.3)
3人	112	(19.3)
4人	17	(2.9)
5人以上	5	(0.9)
子どもはいない	150	(25.8)
不明	24	(4.1)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	62	(10.7)
同居人あり	483	(83.1)
単身赴任	6	(1.0)
その他	7	(1.2)
不明	23	(4.0)

【居住年数】	回答者数	割合
1年未満	1	(0.2)
1～5年未満	15	(2.6)
5～10年未満	10	(1.7)
10～20年未満	28	(4.8)
20年以上	510	(87.8)
不明	17	(2.9)

2.2 調査結果の概要

補足調査で得られた分野別実感に対する回答を「感じる・やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない・感じない」の3つに区分し、分野別実感に対する理由として多い順に整理した結果、表3のとおりとなりました。

表3 【補足調査】分野別実感の回答理由（実感別）

分野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分 イ 健康診断の結果 ウ ころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分 イ 持病の有無 ウ 健康診断の結果	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分 ウ ころの健康状態
(1)-2 こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分 イ からだの健康状態 ウ 充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など)	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 家族との交流	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
(3) 家族関係	ア 会話の頻度 イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度 イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 同居の有無	ア 会話の頻度 イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 困った時に助け合えるかどうか
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など) ウ 子育てにかかる費用
(5) 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) ウ 不登校やいじめなどへの対応	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 不登校やいじめなどへの対応 ウ 学力を育む教育内容 エ 学校の選択の幅(高校、大学など)
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 住宅の延べ床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) イ 公共交通機関の利便性 ウ 居住形態(持ち家か借家か)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) イ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) ウ 公共交通機関の利便性
(7) 地域社会とのつながり	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止 ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止 ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 就業形態(正規・非正規など)	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み	ア 現在の収入・給料の額 イ 将来の収入・給料の額の見込み ウ 現在の職種・業務の内容
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 生活の程度 ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域での文化継承・街並み	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域の歴史や文化に関心がない ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量 イ 空気の状態 ウ 水(河川、池、地下水など)の状態	ア 緑の量 イ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 ウ 水(河川、池、地下水など)の状態	ア 水(河川、池、地下水など)の状態 イ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 ウ 自然に関心がない

平成31年県民意識調査回答時と令和2年補足調査回答時において、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の3つに区分し、分野別実感に対する理由として多い順に整理した結果、表4のとおりとなりました。

なお、「(1) -1 からだの健康」及び「(1) -2 こころの健康」については、平成31年県民意識調査の分野別実感において「心身の健康」として実感を調査しており、今年度は比較ができないため、下表には記載していません。

表4 【補足調査】分野別実感の回答理由（実感の変化別）

分野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 家族との交流	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
(3) 家族関係	ア 同居の有無 イ 会話の頻度 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度 イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度 イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 一緒にいる時間
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 子どもの教育にかかる費用	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 子育てにかかる費用 エ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)
(5) 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 不登校やいじめなどへの対応 ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) ウ 住宅の延べ床面積(広さ・狭さ)	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) ウ 住宅の延べ床面積(広さ・狭さ)	ア 公共交通機関の利便性 イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などの距離など) ウ 住宅の安全性(耐震、耐火、浸水対策など)
(7) 地域社会とのつながり	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生 イ 自然災害の発生状況 ウ 地域の防災体制(自治会・町内会の防災活動、消防団など)	ア 犯罪の発生 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の防止	ア 自然災害の発生状況 イ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など) ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人 エ 地域での文化継承・街並み	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域での文化継承・保存活動	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の歴史や文化に関心がない
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量 イ 空気の状態 ウ 水(河川、池、地下水など)の状態	ア 緑の量 イ 空気の状態 ウ 水(河川、池、地下水など)の状態	ア 緑の量 イ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 ウ 自然に関心がない

第4章 分析結果

県民意識調査及び補足調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の視点、方法で整理しました。

【分析に当たって】

1 分析目的

(1) 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握

県民意識の現状を把握するため、県民意識調査で得られた主観的幸福感や分野別実感の時系列変化と属性差を把握します。

(2) 分野別実感の変動要因の推測

県民意識の変化の状況を把握するため、平成 31 年県民意識調査と令和 2 年県民意識調査で有意な差が確認された分野別実感については、県民意識調査や補足調査を用いて、その要因を推測します。

(3) 分野別実感が一貫して低値又は高値で推移している属性の把握とその要因の推測

分野別実感が一貫して低い又は高い属性を把握するため、平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で得られた分野別実感で一貫して低値（平均値が毎年 3 点未満）又は高値（平均値が毎年 4 点以上）で推移している属性を把握するとともに、補足調査を用いて、その要因を推測します。

2 分析対象

(1) 県民意識調査（詳細は P 3 参照）

県民意識の状況を把握するため、無作為に抽出した 18 歳以上の県民 5,000 人を対象に毎年実施し（調査対象は毎年異なる）、主観的幸福感や分野別実感などを調査しています。

(2) 県民意識調査（補足調査）（詳細は P 7 参照）

県民意識調査結果を補足するため、あらかじめ選定した 600 人を対象に実施し（調査対象は毎年同じ）、主観的幸福感、分野別実感に加え、分野別実感の回答理由などを調査しています。

3 分析方法

(1) 「時系列変化の有無」は t 検定で検証

県民意識調査における時系列変化の有無は、2 時点間（平成 31 年と令和 2 年）の差を t 検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

(2) 「属性差の有無」は一元配置分散分析で検証

令和 2 年県民意識調査における男女差などの各属性（年齢階層別等）の区分（20 歳代、30 歳代、40 歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5%水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。

当年次レポートでは、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「18～19 歳」、「60 歳未満の無職」はサンプル数が小さいため、グラフには掲載していますが、分析対象からは除外しています。

(3) 「分野別実感の変動要因」は県民意識調査や補足調査から推測

以下の 2 つの分析結果をもとに、分野別実感の変動要因を検討しました。

① 分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答理由から変動要因を検証

県民意識調査をもとに、分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握し、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答理由を把握することで、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、県民意識調査で当該分野別実感の低下が大きい属性を把握し、補足調査で当該属性の分野別実感の回答理由を把握することで、分野別実感の変動要因を検討しました。

② 補足調査で得られた分野別実感の回答理由から変動要因を推測

補足調査で得られた分野別実感の回答理由を分野別実感の変化ごと（実感が上昇した人、実感が横ばいの人、実感が低下した人）の3区分に整理し（表4参照）、回答理由の内容や各区分間の比較から、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、「実感が低下した人」の回答理由の内容を分析するとともに、「実感が横ばい、上昇した人」の回答理由との比較を通じて、分野別実感の変動要因を検討しました。

なお、より実感の変化を適切に把握するため、実感が低下した場合は「感じる」から「やや感じる」に低下したものを、実感が上昇した場合は「感じない」から「あまり感じない」に上昇したものを、それぞれ分析対象から除外しています。

(4) 「分野別実感が一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因」は、県民意識調査から属性を把握し、補足調査から要因を推測

平成28年から令和2年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して低値（3点未満）で推移している属性については、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じない」「あまり感じない」の回答理由を把握することで、低値で推移している要因を推測しました。

また、一貫して高値（4点以上）で推移している属性については、分野全体で一貫して高値で推移している分野を対象として、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じる」「やや感じる」の回答理由を把握することで、高値で推移している要因を推測しました。

県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、基準年（平成31年）と令和2年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表5に示しています。

なお、属性別平均値については、資料編 参考資料5（資料編 P99）に掲載しています。

表5 【県民意識調査】属性別平均値一覧表（平成31年調査と令和2年調査の差）

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て
令和2年調査 平均値		3.48	3.15	2.93	3.86	3.07
県計(3,387)		—	0.15	▲ 0.12	—	—
男女	男性(1,494)	—	0.15	▲ 0.10	—	—
	女性(1,875)	—	0.15	▲ 0.12	—	—
	その他(参考)(8)					
年代	18～19歳(参考)(43)	—	—	—	—	—
	20～29歳(160)	—	—	—	—	—
	30～39歳(273)	—	0.32	—	—	▲ 0.22
	40～49歳(432)	—	0.19	—	—	—
	50～59歳(598)	0.17	0.16	▲ 0.15	—	—
	60～69歳(805)	—	0.14	—	—	—
	70歳以上(1,028)	—	—	▲ 0.31	—	—
職業	自営業主(291)	—	—	—	—	—
	家族従業者(136)	—	—	—	—	—
	会社役員・団体役員(198)	—	—	—	—	—
	常用雇用者(885)	—	0.18	—	—	—
	臨時雇用者(432)	—	0.18	—	—	—
	学生＋その他(195)	—	—	—	—	—
	専業主婦・主夫(416)	—	—	—	—	—
	60歳未満の無職(参考)(64)	—	—	—	—	—
60歳以上の無職(686)	—	0.19	▲ 0.29	—	—	
世帯構成	ひとり暮らし(374)	0.17	0.20	—	—	—
	夫婦のみ(765)	—	0.12	▲ 0.16	—	—
	2世代世帯(1,212)	—	0.10	▲ 0.13	—	—
	3世代世帯(469)	—	0.21	—	—	—
	その他(393)	—	—	▲ 0.24	—	—
子の人数	1人(442)	—	0.17	▲ 0.18	—	—
	2人(1,227)	—	—	▲ 0.12	—	—
	3人(646)	—	0.14	▲ 0.16	—	—
	4人以上(168)	—	—	▲ 0.28	—	—
	子どもはいない(725)	—	0.22	—	—	—
居住年数	10年未満(95)	0.35	—	0.05	—	—
	10～20年未満(131)	—	—	▲ 0.04	—	—
	20年以上(2,994)	—	0.15	▲ 0.13	—	—
広域 振興圏	県央(966)	—	0.13	▲ 0.17	—	—
	県南(993)	0.18	0.19	—	—	—
	沿岸(837)	—	—	▲ 0.19	—	—
	県北(591)	—	—	—	—	—

※（ ）は、令和2年調査の回答者数

■ : 上昇、□ : 横ばい、■ : 低下

子どもの教育	住まいの快適さ	地域社会とのつながり	地域の安全	仕事のやりがい	必要な収入や所得	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ
3.09	3.29	3.16	3.66	3.38	2.56	3.25	4.16
—	—	▲ 0.19	▲ 0.16	▲ 0.16	▲ 0.09	—	▲ 0.05
—	▲ 0.09	▲ 0.22	▲ 0.12	▲ 0.12	▲ 0.13	—	—
—	—	▲ 0.16	▲ 0.19	▲ 0.18	—	▲ 0.08	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	0.22	—
—	—	▲ 0.22	▲ 0.20	—	—	—	▲ 0.15
—	—	▲ 0.20	▲ 0.17	—	—	—	—
—	—	▲ 0.21	▲ 0.21	—	—	—	—
—	—	▲ 0.23	▲ 0.15	▲ 0.35	—	—	—
—	—	—	▲ 0.24	—	▲ 0.23	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	▲ 0.20	—	—	—	—
—	—	▲ 0.21	▲ 0.20	—	—	—	—
—	—	—	—	—	▲ 0.17	—	—
—	—	▲ 0.29	—	▲ 0.45	—	▲ 0.38	▲ 0.24
—	—	—	—	—	0.21	▲ 0.22	—
—	—	▲ 0.53	—	—	—	—	▲ 0.40
—	—	▲ 0.26	▲ 0.17	▲ 0.23	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	▲ 0.22	▲ 0.22	—	—	—	▲ 0.11
—	—	▲ 0.20	▲ 0.11	▲ 0.15	—	—	—
—	—	▲ 0.26	▲ 0.17	—	▲ 0.18	—	—
—	—	▲ 0.24	▲ 0.28	▲ 0.33	—	—	—
—	—	▲ 0.21	—	—	—	—	—
—	—	▲ 0.21	▲ 0.15	▲ 0.14	—	—	▲ 0.09
—	—	▲ 0.18	▲ 0.18	▲ 0.25	—	—	—
—	—	▲ 0.25	▲ 0.27	—	—	—	—
—	—	▲ 0.17	▲ 0.12	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	0.25
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	▲ 0.20	▲ 0.16	▲ 0.16	▲ 0.12	—	▲ 0.07
—	—	▲ 0.20	▲ 0.13	▲ 0.15	—	—	—
—	—	▲ 0.17	▲ 0.09	▲ 0.12	—	—	—
—	—	▲ 0.26	▲ 0.28	▲ 0.18	▲ 0.18	—	▲ 0.12
—	—	▲ 0.14	▲ 0.19	▲ 0.20	—	—	—

次に、県民意識調査において分野別実感の調査を始めた平成28年から令和2年までにおいて、実感平均値が一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性を表6に示しています。

表6 【県民意識調査】属性別平均値一覧表(平成28年から令和2年まで一貫して低値又は高値で推移している属性)

■:低値、■:高値

		余暇の充実	家族関係	子育て	子どもの教育	必要な収入や所得	自然のゆたかさ
令和2年調査 平均値		2.93	3.86	3.07	3.09	2.56	4.16
県計(3,387)						2.44~2.65	4.16~4.27
男女	男性(1,494)					2.46~2.68	4.13~4.25
	女性(1,875)					2.43~2.61	4.18~4.29
	その他(参考)(8)						
年代	18~19歳(参考)(43)						
	20~29歳(160)			2.75~2.89	2.91~2.99	2.44~2.66	4.20~4.37
	30~39歳(273)	2.71~2.88				2.36~2.51	4.22~4.33
	40~49歳(432)	2.82~2.88				2.50~2.66	4.16~4.42
	50~59歳(598)	2.68~2.92				2.46~2.60	4.25~4.38
	60~69歳(805)					2.37~2.63	4.09~4.24
	70歳以上(1,028)					2.45~2.75	4.10~4.20
職業	自営業主(291)					2.53~2.86	4.21~4.29
	家族従業者(136)					2.42~2.91	4.12~4.50
	会社役員・団体役員(198)						4.20~4.28
	常用雇用者(885)	2.82~2.89				2.55~2.72	4.21~4.33
	臨時雇用者(432)					2.20~2.56	4.22~4.36
	学生+その他(195)					2.49~2.80	4.09~4.59
	専業主婦・主夫(416)					2.34~2.67	4.15~4.29
	60歳未満の無職(参考)(64)						
	60歳以上の無職(686)					2.25~2.46	4.04~4.09
世帯構成	ひとり暮らし(374)			2.71~2.94		2.52~2.65	4.16~4.22
	夫婦のみ(765)		4.00~4.05			2.43~2.76	4.10~4.22
	2世代世帯(1,212)	2.80~2.98				2.41~2.62	4.19~4.29
	3世代世帯(469)	2.71~2.96				2.49~2.72	4.29~4.44
	その他(393)						
子の人数	1人(442)					2.41~2.70	4.16~4.28
	2人(1,227)					2.48~2.71	4.16~4.25
	3人(646)					2.48~2.70	4.16~4.30
	4人以上(168)					2.31~2.58	4.22~4.32
	子どもはいない(725)	2.84~2.97		2.60~2.73	2.80~2.96	2.37~2.53	4.14~4.30
居住年数	10年未満(95)				2.78~2.95	2.55~2.92	4.16~4.46
	10~20年未満(131)					2.48~2.68	4.21~4.31
	20年以上(2,994)					2.42~2.66	4.15~4.27
広域振興圏	県央(966)					2.47~2.73	4.19~4.28
	県南(993)					2.39~2.58	4.11~4.26
	沿岸(837)					2.51~2.71	4.13~4.26
	県北(591)					2.34~2.60	4.23~4.37

※ () は、令和2年調査の回答者数

1 主観的幸福感について

【主観的幸福感の概況】

① 令和2年県民意識調査と前年調査との比較（図1及び図2参照）

令和2年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じる」と「やや幸福だと感じる」と回答した人の割合は、県全体で56.2%となり、前年調査より3.9ポイント上昇しました。

「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は3.48点となり、前年調査より0.05点上昇しています。

しかし、t検定を行った結果、前年調査と比べて有意な差があるとはいえないため、主観的幸福感については横ばいに推移していると考えられます。

② 属性別の状況

ア 令和2年県民意識調査の状況（図5参照）

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、寮、グループホームなどの「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10年未満」が高くなりました。

イ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較（表7参照）

前年調査と比較して上昇した属性は、年代別では「50歳代」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、居住年数別では「10年未満」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」でした。

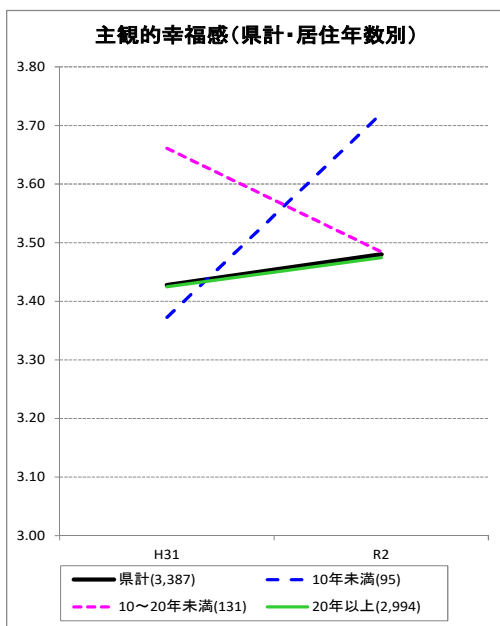
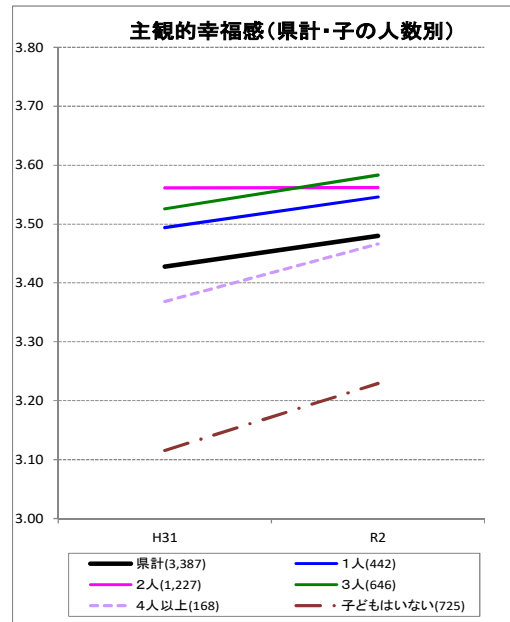
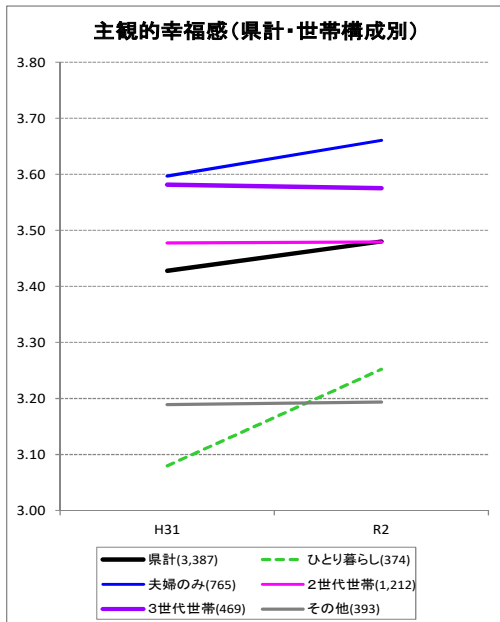
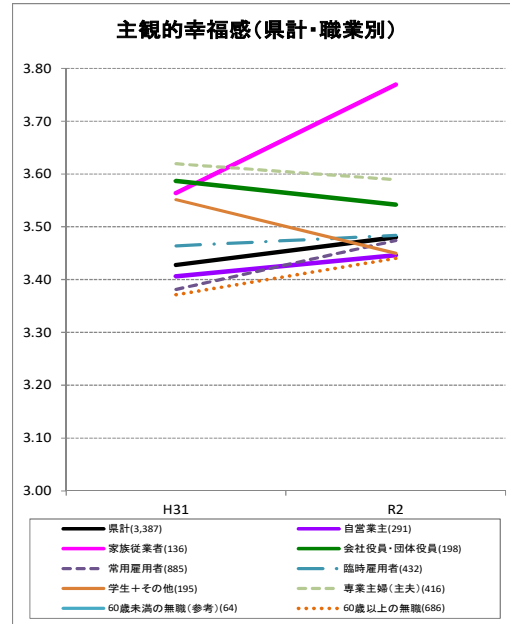
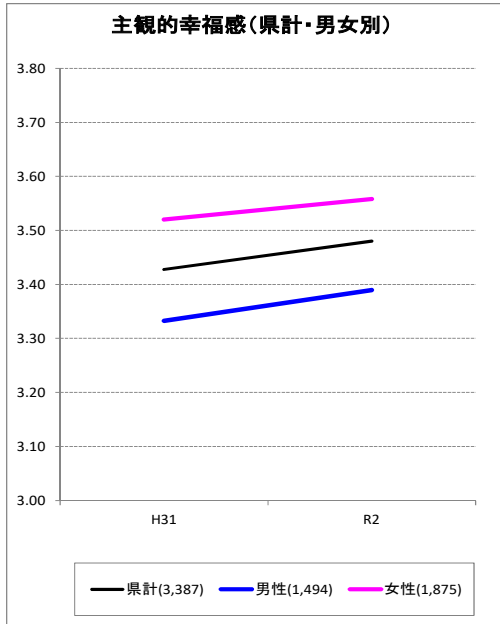
表7 主観的幸福感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R2	R2-H31 (対前年差)
年代	50～59歳	3.33	3.50	0.17
世帯構成	ひとり暮らし	3.08	3.25	0.17
居住年数	10年未満	3.37	3.72	0.35
広域振興圏	県南広域振興圏	3.31	3.49	0.18

③ 幸福感を判断する上で重視された項目（図4参照）

令和2年県民意識調査において、回答した人が幸福感を判断する上で特に重視した項目は、「健康状況」及び「家族関係」でした。

図5 主観的幸福感の属性別集計結果



2 分野別実感について

令和2年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表8のとおりであり、いわて県民計画（2019～2028）の開始前である平成31年を基準とした場合、1分野で上昇、5分野で横ばい、6分野で低下が見られました。

表8 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果

政策分野	分野別実感	平均値の推移	
		H31 (基準年)	R2 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15 ↑ (0.15)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93 ↓ (△0.12)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86 - (0.02)
	(4) 子育て	3.08	3.07 - (△0.01)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09 - (△0.01)
IV 居住環境・ コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29 - (△0.04)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16 ↓ (△0.19)
V 安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66 ↓ (△0.16)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38 ↓ (△0.16)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56 ↓ (△0.09)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25 - (△0.03)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16 ↓ (△0.05)

(注) ① () は前年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

2.1 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は2.93点であり、前年調査より0.12点低下しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「20歳代」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表9のとおりでした。

表9 「余暇の充実」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R2	R2-H31 (対前年差)
県計		3.05	2.93	▲ 0.12
性別	男性	3.01	2.90	▲ 0.10
	女性	3.08	2.96	▲ 0.12
年代	50～59歳	2.92	2.78	▲ 0.15
	70歳以上	3.36	3.05	▲ 0.31
職業	60歳以上の無職	3.26	2.97	▲ 0.29
世帯構成	夫婦のみ	3.24	3.08	▲ 0.16
	2世代世帯	2.97	2.84	▲ 0.13
	その他	2.96	2.72	▲ 0.24
子の人数	1人	3.05	2.87	▲ 0.18
	2人	3.10	2.99	▲ 0.12
	3人	3.08	2.92	▲ 0.16
	4人以上	3.05	2.78	▲ 0.28
居住年数	10年未満	3.12	3.17	0.05
	10～20年未満	3.17	3.13	▲ 0.04
	20年以上	3.03	2.91	▲ 0.13
広域振興圏	県央広域振興圏	3.17	2.99	▲ 0.17
	沿岸広域振興圏	3.09	2.90	▲ 0.19

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表9のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」で、実感が低下した人の回答理由は以下のとおりでした（表4参照）。
 - ア 自由な時間の確保
 - イ 趣味・娯楽活動の場所・機会
 - ウ 知人・友人との交流

- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答理由と、実感が横ばい、上昇した人の回答理由を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自由な時間の確保」「趣味・娯楽活動の場所・機会」「知人・友人との交流」であると推測されます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 10 のとおりです。
- ・ 補足調査において、これらの属性で「あまり感じない・感じない」と回答した理由は、「自由な時間の確保」「知人・友人との交流」「趣味・娯楽活動の場所・機会」で全て同一であったことから、これらが要因として推測されます。

表 10 「余暇の充実」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2
年代	30～39 歳	2.73	2.88	2.88	2.71	2.78
	40～49 歳	2.88	2.82	2.88	2.87	2.88
	50～59 歳	2.68	2.85	2.79	2.92	2.78
職業別	常用雇用者	2.82	2.87	2.82	2.89	2.85
世帯構成	2 世代世帯	2.80	2.98	2.94	2.97	2.84
子の人数	子どもはいない	2.84	2.92	2.97	2.92	2.91

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和 2 年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は 3.16 点であり、前年調査より 0.19 点低下しています。

t 検定を行った結果、前年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 2 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「20 歳代」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「3 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「10 年未満」が低く、「20 年以上」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県央広域振興圏」が低く、「県南広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 2 年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表 11 のとおりでした。

表 11 「地域社会とのつながり」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R 2	R2-H31 (対前年差)
県計		3.35	3.16	▲ 0.19
性別	男性	3.37	3.15	▲ 0.22
	女性	3.33	3.16	▲ 0.16
年代	40～49 歳	3.22	3.00	▲ 0.22

	50～59 歳	3.30	3.10	▲ 0.20
	60～69 歳	3.37	3.16	▲ 0.21
	70 歳以上	3.59	3.36	▲ 0.23
職業	常用雇用者	3.22	3.01	▲ 0.21
	学生＋その他	3.32	3.03	▲ 0.29
	60 歳以上の無職	3.48	3.22	▲ 0.26
世帯構成	夫婦のみ	3.39	3.17	▲ 0.22
	2 世代世帯	3.34	3.14	▲ 0.20
	3 世代世帯	3.53	3.27	▲ 0.26
	その他	3.26	3.02	▲ 0.24
子の人数	1 人	3.31	3.10	▲ 0.21
	2 人	3.45	3.24	▲ 0.21
	3 人	3.47	3.29	▲ 0.18
	4 人以上	3.43	3.18	▲ 0.25
	子どもはいない	3.08	2.91	▲ 0.17
居住年数	20 年以上	3.37	3.17	▲ 0.20
広域振興圏	県央広域振興圏	3.24	3.04	▲ 0.20
	県南広域振興圏	3.40	3.23	▲ 0.17
	沿岸広域振興圏	3.43	3.18	▲ 0.26
	県北広域振興圏	3.33	3.19	▲ 0.14

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 11 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」で、実感が低下した人の回答理由は以下のとおりでした。
 - ア 隣近所との面識・交流
 - イ 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
 - ウ 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答理由と、実感が横ばい、上昇した人の回答理由を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「隣近所との面識・交流」「自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）」「地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）」であると推測されます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）又は高値（4 点以上）で推移している属性はありませんでした。

(3) 「地域の安全」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和 2 年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は 3.66 点であり、前年調査より 0.16 点低下しています。

t 検定を行った結果、前年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「女性」が低く、「男性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「60歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「学生＋その他」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「沿岸広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表12のとおりでした。

表12 「地域の安全」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R2	R2-H31 (対前年差)
県計		3.82	3.66	▲ 0.16
性別	男性	3.84	3.72	▲ 0.12
	女性	3.80	3.61	▲ 0.19
年代	40～49歳	3.79	3.59	▲ 0.20
	50～59歳	3.84	3.67	▲ 0.17
	60～69歳	3.80	3.58	▲ 0.21
	70歳以上	3.91	3.75	▲ 0.15
職業	自営業主	3.94	3.70	▲ 0.24
	会社役員・団体役員	3.85	3.64	▲ 0.20
	常用雇用者	3.83	3.64	▲ 0.20
	60歳以上の無職	3.86	3.69	▲ 0.17
世帯構成	夫婦のみ	3.86	3.64	▲ 0.22
	2世代世帯	3.81	3.70	▲ 0.11
	3世代世帯	3.89	3.72	▲ 0.17
	その他	3.79	3.51	▲ 0.28
子の人数	2人	3.85	3.70	▲ 0.15
	3人	3.85	3.67	▲ 0.18
	4人以上	3.92	3.65	▲ 0.27
	子どもはいない	3.74	3.62	▲ 0.12
居住年数	20年以上	3.83	3.67	▲ 0.16
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.75	▲ 0.13
	県南広域振興圏	3.78	3.69	▲ 0.09
	沿岸広域振興圏	3.82	3.54	▲ 0.28
	県北広域振興圏	3.82	3.63	▲ 0.19

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表12のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」で、実感が低下した人の回答理由は以下のとおりでした。
 - ア 自然災害の発生状況

- イ 自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）
- ウ 社会インフラの老朽化（橋、下水道など）
- ・ 補足調査結果において、実感が横ばい、上昇した人の回答理由では、「犯罪の発生」、「交通事故の発生」などが上位でしたが、実感が低下した人の回答理由では、「自然災害の発生状況」や「自然災害に対する予防」といった自然災害に関連した理由が多くなっています。県民意識調査結果の属性別の変化（表 12）から、男女ともに、かつ全広域振興圏、特に沿岸圏域において実感が低下している傾向にあることから、本県も多大な被害を受けた令和元年東日本台風災害の影響はもちろんのこと、近年、全国的に頻発している自然災害を受けて実感が低下していることが推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自然災害の発生状況」「自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）」「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）」が推測されます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）又は高値（4 点以上）で推移している属性はありませんでした。

(4) 「仕事のやりがい」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和 2 年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は 3.38 点であり、前年調査より 0.16 点低下しています。

t 検定を行った結果、前年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 2 年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「女性」が低く、「男性」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「3 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。

○ 令和 2 年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表 13 のとおりでした。

表 13 「仕事のやりがい」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R 2	R2-H31 (対前年差)
県計		3.54	3.38	▲ 0.16
性別	男性	3.53	3.41	▲ 0.12
	女性	3.54	3.35	▲ 0.18
年代	70 歳以上	3.72	3.37	▲ 0.35
職業	学生+その他	3.79	3.34	▲ 0.45
	60 歳以上の無職	3.32	3.10	▲ 0.23
世帯構成	2 世代世帯	3.51	3.36	▲ 0.15
	その他	3.54	3.20	▲ 0.33
子の人数	2 人	3.57	3.43	▲ 0.14
	3 人	3.74	3.49	▲ 0.25
居住年数	20 年以上	3.53	3.37	▲ 0.16

広域振興圏	県央広域振興圏	3.58	3.42	▲ 0.15
	県南広域振興圏	3.48	3.36	▲ 0.12
	沿岸広域振興圏	3.57	3.39	▲ 0.18
	県北広域振興圏	3.53	3.33	▲ 0.20

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 13 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」で、実感が低下した人の回答理由は以下のとおりでした。
 - ア 現在の収入・給料の額
 - イ 現在の職種・業務の内容
 - ウ 将来の収入・給料の額の見込み
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答理由と、実感が横ばい、上昇した人の回答理由を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「現在の収入・給料の額」、「現在の職種・業務の内容」、「将来の収入・給料の額の見込み」であると推測されます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）又は高値（4 点以上）で推移している属性はありませんでした。

(5) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和 2 年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は 2.56 点であり、前年調査より 0.09 点低下しています。

t 検定を行った結果、前年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 2 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「30 歳代」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「会社役員・団体役員」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10 年未満」が高くなりました。

○ 令和 2 年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表 14 のとおりでした。

表 14 「必要な収入や所得」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R 2	R2-H31 (対前年差)
県計		2.65	2.56	▲ 0.09
性別	男性	2.68	2.55	▲ 0.13
職業	自営業主	2.86	2.63	▲ 0.23
	臨時雇用者	2.56	2.39	▲ 0.17
	専業主婦（主夫）	2.46	2.67	0.21

世帯構成	3世代世帯	2.72	2.55	▲ 0.18
居住年数	20年以上	2.66	2.54	▲ 0.12
広域振興圏	沿岸広域振興圏	2.71	2.53	▲ 0.18

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表14のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」で、実感が低下した人の回答理由は以下のとおりでした。
 - ア 自分の収入・所得額（年金を含む）
 - イ 家族の収入・所得額（年金を含む）
 - ウ 自分の金融資産の額
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答理由と、実感が横ばい、上昇した人の回答理由を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自分の収入・所得額（年金を含む）」、「家族の収入・所得額（年金を含む）」、「自分の金融資産の額」であると推測されます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和2年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表15のとおりです。
- ・ ほぼ全ての属性において一貫して低値で推移していることから、補足調査において、当該分野別実感で「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、「自分の収入・所得額（年金を含む）」、「家族の収入・所得額（年金を含む）」、「自分の金融資産の額」が一貫して低値で推移している要因として推測されることから、低値で推移している要因は「分野別実感が低下した要因」と同一であると推測されます（表3参照）。

表15 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2
県計		2.44	2.58	2.45	2.65	2.56
性別	男性	2.46	2.60	2.47	2.68	2.55
	女性	2.43	2.56	2.43	2.61	2.58
年代	20～29歳	2.48	2.51	2.44	2.66	2.49
	30～39歳	2.44	2.47	2.42	2.51	2.36
	40～49歳	2.51	2.56	2.52	2.66	2.50
	50～59歳	2.46	2.52	2.49	2.60	2.52
	60～69歳	2.37	2.57	2.40	2.63	2.59
	70歳以上	2.46	2.70	2.45	2.75	2.65
職業別	自営業主	2.53	2.69	2.58	2.86	2.63
	家族従業者	2.61	2.85	2.42	2.91	2.73
	常用雇用者	2.58	2.66	2.55	2.72	2.60
	臨時雇用者	2.20	2.31	2.30	2.56	2.39
	学生+その他	2.49	2.73	2.63	2.80	2.55
	専業主婦（主夫）	2.37	2.48	2.34	2.46	2.67
	60歳以上の無職	2.25	2.46	2.29	2.37	2.46
世帯構成	ひとり暮らし	2.52	2.65	2.53	2.65	2.57
	夫婦のみ	2.59	2.72	2.43	2.76	2.68

	2世代世帯	2.41	2.54	2.51	2.62	2.54
	3世代世帯	2.49	2.56	2.52	2.72	2.55
	その他	2.15	2.42	2.18	2.47	2.30
子の人数	1人	2.41	2.52	2.48	2.70	2.53
	2人	2.48	2.61	2.49	2.71	2.62
	3人	2.52	2.70	2.48	2.69	2.59
	4人以上	2.36	2.54	2.31	2.48	2.58
	子どもはいない	2.37	2.44	2.40	2.53	2.42
居住年数	10年未満	2.78	2.74	2.71	2.55	2.92
	10～20年未満	2.58	2.52	2.60	2.48	2.68
	20年以上	2.42	2.57	2.44	2.66	2.54
広域振興圏	県央	2.47	2.59	2.50	2.73	2.62
	県南	2.39	2.53	2.42	2.54	2.58
	沿岸	2.52	2.63	2.51	2.71	2.53
	県北	2.37	2.57	2.34	2.60	2.48

(6) 「自然のゆたかさ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は4.16点であり、前年調査より0.05点低下しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「60歳代」が低く、「30歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県北広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表16のとおりでした。

表16 「自然のゆたかさ」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R2	R2-H31 (対前年差)
県計		4.21	4.16	▲ 0.05
年代	40～49歳	4.30	4.16	▲ 0.15
職業	学生+その他	4.33	4.09	▲ 0.24
世帯構成	夫婦のみ	4.20	4.10	▲ 0.11
子の人数	2人	4.25	4.16	▲ 0.09
居住年数	10年未満	4.20	4.46	0.25
	20年以上	4.22	4.15	▲ 0.07
広域振興圏	沿岸広域振興圏	4.26	4.13	▲ 0.12

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 16 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」で、実感が低下した人の回答理由は以下のとおりでした。
 - ア 緑の量（少ない）
 - イ 公園・緑地、水辺などの周辺環境
 - ウ 自然に関心がない
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答理由と、実感が横ばい、上昇した人の回答理由を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「緑の量（少ない）」、「公園・緑地、水辺などの周辺環境」、「自然に関心がない」であると推測されます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）で推移している属性はなく、高値（4 点以上）で推移している属性は表 17 のとおりです。
- ・ 全ての属性において高値で推移していることから、補足調査において、当該分野別実感の「感じる・やや感じる」と回答した理由から、「緑の量（豊か）」「空気の状態（綺麗）」「水（河川、池、地下水など）の状態（綺麗）」が一貫して高値で推移している要因として推測されます（表 3 参照）。

表 17 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性

属性		H29	H30	H31	R 2
県計		4.26	4.27	4.21	4.16
性別	男性	4.23	4.25	4.19	4.13
	女性	4.29	4.28	4.23	4.18
年代	20～29 歳	4.37	4.36	4.20	4.20
	30～39 歳	4.28	4.31	4.22	4.33
	40～49 歳	4.30	4.42	4.30	4.16
	50～59 歳	4.30	4.38	4.27	4.25
	60～69 歳	4.24	4.18	4.17	4.09
	70 歳以上	4.20	4.14	4.17	4.10
職業別	自営業主	4.29	4.29	4.21	4.22
	家族従業者	4.50	4.31	4.12	4.33
	会社役員・団体役員	4.28	4.26	4.28	4.20
	常用雇用者	4.30	4.33	4.25	4.21
	臨時雇用者	4.36	4.31	4.31	4.22
	学生＋その他	4.37	4.59	4.33	4.09
	専業主婦（主夫）	4.22	4.29	4.21	4.15
	60 歳以上の無職	4.09	4.04	4.09	4.04
世帯構成	ひとり暮らし	4.18	4.22	4.18	4.16
	夫婦のみ	4.21	4.22	4.20	4.10
	2 世代世帯	4.29	4.28	4.22	4.19
	3 世代世帯	4.44	4.39	4.34	4.29
子の人数	1 人	4.28	4.25	4.21	4.16
	2 人	4.24	4.25	4.25	4.16

	3人	4.28	4.30	4.23	4.16
	4人以上	4.32	4.28	4.25	4.22
	子どもはいない	4.27	4.30	4.14	4.19
居住年数	10年未満	4.16	4.22	4.20	4.46
	10～20年未満	4.21	4.29	4.24	4.31
	20年以上	4.27	4.27	4.22	4.15
広域振興圏	県央	4.26	4.28	4.19	4.20
	県南	4.22	4.26	4.15	4.11
	沿岸	4.25	4.25	4.26	4.13
	県北	4.37	4.27	4.31	4.23

2.2 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は3.15点であり、前年調査より0.15点上昇しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 性別では「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では「40歳代」が低く、「20歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では「60歳以上の無職」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では「子どもはいない人」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では居住期間が「20年以上」が低く、居住期間が「10年未満」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表18のとおりであり、その要因としては、補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」より、「睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分」などが推測されます。

表18 「心身の健康」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R2	R2-H31 (対前年差)
県計		3.00	3.15	0.15
性別	男性	2.97	3.12	0.15
	女性	3.03	3.18	0.15
年代	30～39歳	2.80	3.12	0.32
	40～49歳	2.85	3.04	0.19
	50～59歳	2.90	3.06	0.16
	60～69歳	3.05	3.19	0.14
職業	常用雇用者	2.91	3.10	0.18
	臨時雇用者	3.04	3.22	0.18
	60歳以上の無職	2.90	3.10	0.19

世帯構成	ひとり暮らし	2.98	3.18	0.20
	夫婦のみ	3.12	3.24	0.12
	2世代世帯	3.00	3.10	0.10
	3世代世帯	3.01	3.22	0.21
子の人数	1人	2.96	3.13	0.17
	3人	3.02	3.17	0.14
	子どもはいない	2.82	3.04	0.22
居住年数	20年以上	2.98	3.13	0.15
広域振興圏	県央広域振興圏	3.09	3.22	0.13
	県南広域振興圏	2.92	3.12	0.19

② 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成28年から令和2年までの県民意識調査で、一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性はありませんでした。

2.3 実感が横ばいの分野

(1) 「家族関係」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は3.86点であり、前年調査より0.02点上昇しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では「60歳代」が低く、「20歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では「子どもはいない」が低く、「1人」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成28年から令和2年までの県民意識調査で、一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性はありませんでした。

(2) 「子育て」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は3.07点であり、前年調査より0.01点低下しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「30歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「会社役員・団体役員」が低く、「家族従業者」が高くなりました。

- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「1人」が高くなりました。

○ **令和2年県民意識調査と前年調査との比較**

前年調査と比較して有意に変化した属性は表19のとおりであり、その要因としては、補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」より、「子育てにかかる費用」や「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）」などが推測されます。

表19 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R2	R2-H31 (対前年差)
年代	30～39歳	3.03	2.82	▲ 0.22

② **一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因**

平成28年から令和2年までの県民意識調査で、一貫して**高値（4点以上）**で推移している属性はなく、**低値（3点未満）**で推移している属性は表20のとおりです。

○ **20歳代**

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」で、「20歳代」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、以下の要因が推測されます。

- ア 子育て支援サービスの内容
- イ 子どもの教育にかかる費用
- ウ 子育てにかかる費用
- エ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）

○ **ひとり暮らし**

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」で、「ひとり暮らし」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、以下の要因が推測されます。

- ア 子どもを預けられる場所の有無（保育所など）
- イ 子どもの教育にかかる費用
- ウ わからない（身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど）

○ **子どもはいない**

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」で、「子どもはいない」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、以下の要因が推測されます。

- ア わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- イ 子どもの教育にかかる費用
- ウ 子育てにかかる費用
- エ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）

表20 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2
年代	20～29歳	2.83	2.84	2.75	2.80	2.89
世帯構成	ひとり暮らし	2.71	2.80	2.86	2.80	2.94
子の人数	子どもはいない	2.61	2.73	2.63	2.60	2.72

(3) 「子どもの教育」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は3.09点であり、前年調査より0.01点低下しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「30歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和2年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表21のとおりです。

○ 20歳代

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」で、「20歳代」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、以下の要因が推測されます。

- ア 人間性、社会性を育むための教育内容
- イ 学力を育む教育内容
- ウ 不登校やいじめなどへの対応
- エ 図書館や科学館などの充実
- オ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）

○ 子どもはいない

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」で、「子どもはいない」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、以下の要因が推測されます。

- ア 学力を育む教育内容
- イ 人間性、社会性を育むための教育内容
- ウ 不登校やいじめなどの対応
- エ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）

○ 居住年数10年未満

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」で、「10年未満」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、以下の要因が推測されます。

- ア 学力を育む教育内容
- イ 学校の選択の幅（高校、大学など）
- ウ 地域での教育、学び

表21 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2
年代	20～29歳	2.99	2.91	2.94	2.92	2.96
子の人数	子どもはいない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80
居住年数	10年未満	2.80	2.79	2.85	2.78	2.95

(4)「住まいの快適さ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は3.29点であり、前年調査より0.04点低下しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「30歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「専業主婦（主夫）」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「1人」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表22のとおりであり、その要因としては、補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」より、「立地の利便性」や「公共交通機関の利便性」などが推測されます。

表22 「住まいの快適さ」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R2	R2-H31 (対前年差)
性別	男性	3.35	3.26	▲ 0.09

② 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成28年から令和2年までの県民意識調査で、一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性はありませんでした。

(5)「歴史・文化への誇り」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感に係る令和2年県民意識調査と前年調査との比較

実感平均値は3.25点であり、前年調査より0.03点低下しています。

t検定を行った結果、前年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和2年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「学生+その他」が低く、「会社役員・団体役員」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「ひとり暮らし」が高くなりました。

○ 令和2年県民意識調査と前年調査との比較

前年調査と比較して有意に変化した属性は表23のとおりであり、その要因としては、補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由」より、実感が上昇した「30歳代」では「地域のお祭り・伝統芸能」などが推測され、実感が低下した属性

においては「誇りを感じる歴史や文化が見当たらない」などが推測されます。

表 23 「歴史・文化への誇り」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R 2	R2-H31 (対前年差)
性別	女性	3.35	3.27	▲ 0.08
年代	30～39 歳	3.02	3.24	0.22
職業	学生+その他	3.53	3.16	▲ 0.38
	専業主婦（主夫）	3.40	3.18	▲ 0.22

② **一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因**

平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）又は高値（4 点以上）で推移している属性はありませんでした。

第5章 まとめ

1 主観的幸福感について

令和2年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じる」と「やや幸福だと感じる」と回答した人の割合は、県全体で56.2%となり、前年調査より3.9ポイント上昇しました。

「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、前年調査より0.05点上昇して3.48点となり、主観的幸福感については横ばいに推移していると考えられます。

前年調査と比較して上昇した属性は、年代別では「50歳代」、世帯構成では「ひとり暮らし」、居住年数では「10年未満」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

また、幸福を判断するに当たっては、「健康状況」及び「家族関係」を、特に重視していることが分かりました。

2 分野別実感について

分野別の実感について、「感じる」から「感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、分野別実感の平均値は、前年調査と比較して、1分野で上昇、5分野で横ばい、6分野で低下が見られました。

2.1 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.12点低下して2.93点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「50歳代」、「70歳以上」、職業別では「60歳以上の無職」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、「2世代世帯」、「その他世帯」、子の人数別では「子どもが1人以上」、居住年数別では「10～20年未満」、「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性は、居住年数別の「10年未満」でした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- ア 自由な時間の確保
- イ 趣味・娯楽活動の場所・機会
- ウ 知人・友人との交流

一貫して低値で推移している属性は、年代別で見ると、「30歳代から50歳代」、職業別で見ると、「常用雇用者」、世帯構成別で見ると、「2世代世帯」、子の人数別で見ると、「子どもはいない」であり、補足調査の結果より、これらの属性で「あまり感じない・感じない」と回答した理由が全て同じであることから、以下の要因が推測されます。

- ア 自由な時間の確保
- イ 知人・友人との交流
- ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.19点低下して3.16点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「40歳以上」、職業別では「常用雇用者」、「学生＋その他」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「ひ

とり暮らしを除く全ての属性」、子の人数別では「全ての属性」、居住年数では「20年以上」、広域振興圏別では「全ての属性」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- ア 隣近所との面識・交流
- イ 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
- ウ 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）

(3)「地域の安全」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.16点低下して3.66点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「40歳以上」、職業別では「自営業主」、「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「ひとり暮らしを除く全ての属性」、子の人数別では「子どもが1人を除く全ての属性」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「全ての属性」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- ア 自然災害の発生状況
- イ 自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）
- ウ 社会インフラの老朽化（橋、下水道など）

これらの理由は、実感が上昇又は横ばいの人の回答理由に比べて、自然災害に起因した理由が多く見られます。

また、県民意識調査結果の属性別の変化から、男女ともに、かつ全広域振興圏、特に沿岸圏域において実感が低下している傾向にあることから、本県も多大な被害を受けた令和元年東日本台風災害の影響はもちろんのこと、近年、全国的に頻発している自然災害を受けて実感が低下していることが推測されます。

(4)「仕事のやりがい」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.16点低下して3.38点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「70歳以上」、職業別では「学生＋その他」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「2世代世帯」、「その他世帯」、子の人数別では「2人」、「3人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「全ての属性」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- ア 現在の収入・給料の額
- イ 現在の職種・業務の内容
- ウ 将来の収入・給料の額の見込み

(5)「必要な収入や所得」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.09点低下して2.56点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、性別では「男性」、職業別では「自営業主」、「臨時雇用者」、世帯構成別では「3世代世帯」、居住年数では「20年以上」、広域振興圏別で

は「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性は、職業別の「専業主婦（主夫）」でした。
当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- ア 自分の収入・所得額（年金を含む）
- イ 家族の収入・所得額（年金を含む）
- ウ 自分の金融資産の額

一貫して低値で推移している属性は、「会社役員・団体役員を除く全ての属性」であり、補足調査の結果より、その要因は上記「実感が低下した要因」と同じであると推測されます。

(6) 「自然のゆたかさ」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.05点低下して4.16点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、年代別では「40歳代」、職業別では「学生＋その他」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、子の人数別では「2人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性は、居住年数別の「10年未満」でした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- ア 緑の量（少ない）
- イ 公園・緑地、水辺などの周辺環境
- ウ 自然に関心がない

全ての属性が一貫して高値（4点以上）で推移しており、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- ア 緑の量（豊か）
- イ 空気の状態が（綺麗）
- ウ 水（河川、池、地下水など）の状態（綺麗）

2.2 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.15点上昇して3.15点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

前年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「30歳代から60歳代」、職業別では「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「その他世帯を除く全ての属性」、子の人数別では「1人」、「3人」、「子どもはいない」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

2.3 実感が横ばいの分野

(1) 「家族関係」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.02点上昇して3.86点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

前年調査と比較した結果、有意な変化が見られた属性はありませんでした。

(2) 「子育て」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.01点低下し

て3.07点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、年代別の「30歳代」であり、補足調査の結果より、「子育てにかかる費用」や「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）」などの要因が推測されます。

なお、上昇した属性はありませんでした。

一貫して低値で推移している属性は、

- ・ 年代別では「20歳代」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。
 - ア 子育て支援サービスの内容
 - イ 子どもの教育にかかる費用
 - ウ 子育てにかかる費用
 - エ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）
- ・ 世帯構成別では「ひとり暮らし」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。
 - ア 子どもを預けられる場所の有無（保育所など）
 - イ 子どもの教育にかかる費用
 - ウ わからない（身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど）
- ・ 子の人数別では「子どもはいない」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。
 - ア わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
 - イ 子どもの教育にかかる費用
 - ウ 子育てにかかる費用
 - エ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）

(3) 「子どもの教育」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.01点低下して3.09点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

前年調査と比較した結果、有意な変化が見られた属性はありませんでした。

一貫して低値で推移している属性は、

- ・ 年代別では「20歳代」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。
 - ア 人間性、社会性を育むための教育内容
 - イ 学力を育む教育内容
 - ウ 不登校やいじめなどへの対応
 - エ 図書館や科学館などの充実
 - オ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- ・ 子の人数別では「子どもはいない」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。
 - ア 学力を育む教育内容
 - イ 人間性、社会性を育むための教育内容
 - ウ 不登校やいじめなどへの対応
 - エ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- ・ 居住年数別では「居住年数10年未満」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。
 - ア 学力を育む教育内容
 - イ 学校の選択の幅（高校、大学など）
 - ウ 地域での教育、学び

(4) 「住まいの快適さ」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.04点低下して3.29点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、性別の「男性」であり、補足調査の結果より、「立地の利便性」や「公共交通機関の利便性」などの要因が推測されます。

(5) 「歴史・文化への誇り」の実感

令和2年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、前年調査より0.03点低下して3.25点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

前年調査と比較して低下した属性は、性別では「女性」、職業別では「学生＋その他」と「専業主婦（主夫）」であり、補足調査の結果より、「誇りを感じる歴史や文化が見当たらない」などの要因が推測されます。

また、上昇した属性は、年代別の「30歳代」であり、補足調査の結果より、「地域のお祭り・伝統芸能」などの要因が推測されます。

1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

(設置)

第1条 岩手県総合計画審議会条例（昭和54年岩手県条例第29号）第7条の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌)

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- (2) その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 部会は、岩手県総合計画審議会委員及び外部委員をもって組織する。

- 2 外部委員は、当該部会の所掌事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

(部会長及び副部会長)

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

- 2 部会長は、委員の互選によって定める。
- 3 副部会長は、委員のうちから部会長が指名する。
- 4 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

- 2 オブザーバーは、知事が任命する。
- 3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

(会議)

第6条 部会は、知事が招集する。

- 2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、令和元年6月6日から施行する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 取締役	
ティーン・キャン・ヘーン	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター副センター長	オブザーバー

3 令和2年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月21日(木)	第1回部会開催 (1) 部会長及び副部会長の選出について (2) 意見の聴取について (3) 県民の幸福感に関する分析部会について (4) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (5) 分野別実感の分析について
5月28日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月19日(金)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
7月29日(水)	第4回部会開催 (1) 令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について
10月28日(水)	第5回部会開催 (1) 令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(案)について (2) 令和3年県民意識調査(補足調査)について
11月 日()	第94回総合計画審議会で検討結果を報告

令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート

発行 令和2年〇月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」 令和2年度年次レポート【概要版】(案)

1 分析目的

- 県では、「いわて県民計画(2019~2028)」の実施計画である「政策推進プラン(2019~2022)」の進捗管理に当たり、いわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加え、社会経済情勢や県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識を反映させながら政策を総合的に評価することにより、マネジメントサイクルを確実に機能させていくこととしている。
- 県民の幸福感に関する分析部会では、県民の幸福感を評価に反映させるため、幸福に関する分野別実感の変動要因等について分析を行ったもの。

2 分析対象

- 以下の「県民意識調査」で把握した県民の幸福に関する様々な実感について、「補足調査」の結果を踏まえながら、統計手法等を活用の上、分析を行った。

表1 県民意識調査と補足調査

調査名	県の施策に関する県民意識調査	県の施策に関する県民意識調査(補足調査)
調査対象	県内に居住する18歳以上の男女	
対象者数	5,000人	600人(各広域振興圏150人)
抽出方法	無作為抽出	毎年固定(H31調査回答者から抽出)
調査時期	毎年1~2月	
調査項目	主観的幸福感、分野別実感等	主観的幸福感、分野別実感、分野別実感の回答理由等

3 分析結果

(1) 主観的幸福感の分析結果

- 令和2年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じる」と「やや幸福だと感じる」と回答した人の割合は、県全体で56.2%となり、昨年調査より3.9ポイント上昇。
- 「幸福だと感じる」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、昨年調査より0.05点上昇して3.48点となり、主観的幸福感としては横ばいに推移。
- 幸福を判断するに当たって特に重視した事項は、「健康状況」及び「家族関係」。
- 属性別に昨年調査と比較すると、年代別では「50歳代」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、居住年数別では「10年未満」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」が有意に上昇。

図1 主観的幸福感(県計)の推移

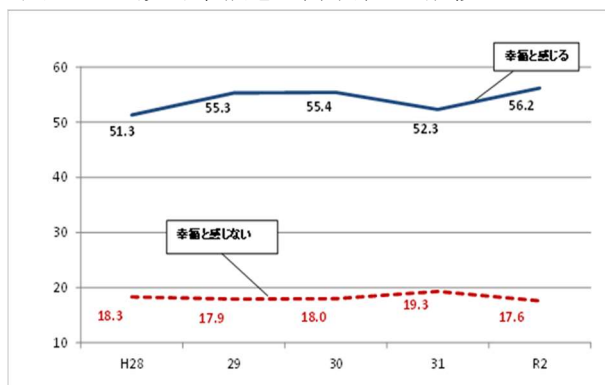
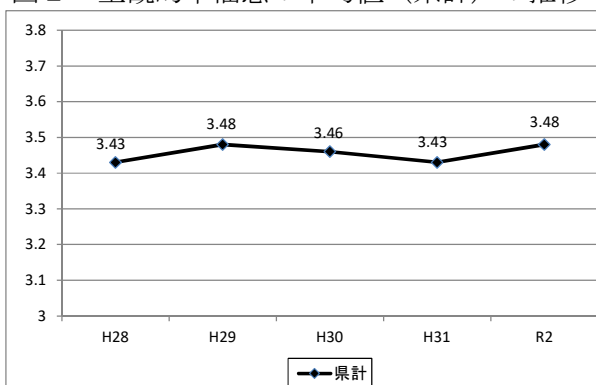


図2 主観的幸福感の平均値(県計)の推移



(2) 主観的幸福感に関連する12の分野別実感の分析結果

① 分野別実感の変動状況に係る分析結果

令和2年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を、前年調査を基準とした場合、以下のとおり、上昇が1分野、横ばいが5分野、低下が6分野となった。

上 昇（1分野）：心身の健康

横ばい（5分野）：家族関係、子育て、子どもの教育、住まいの快適さ、歴史・文化への誇り

低 下（6分野）：余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得、自然のゆたかさ

分野別実感が低下した要因は、補足調査において実感が低下した人の回答理由等から、表2のとおり推測された。

表2 分野別実感が低下した要因分析結果

低下した分野別実感	基準年（H31）と令和2年の実感平均値の差	推測される要因等
余暇の充実	△0.12 (2.93)	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
地域社会とのつながり	△0.19 (3.16)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加 ウ 地域の行事への参加
地域の安全	△0.16 (3.66)	ア 自然災害の発生状況 イ 自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など） ウ 社会インフラの老朽化（橋、下水道など） (令和元年東日本台風をはじめとする、近年、全国で頻発している自然災害の影響が考えられる。)
仕事のやりがい	△0.16 (3.38)	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
必要な収入や所得	△0.09 (2.56)	ア 自分の収入・所得額（年金を含む） イ 家族の収入・所得額（年金を含む） ウ 自分の金融資産の額
自然のゆたかさ	△0.05 (4.16)	ア 緑の量（少ない） イ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 ウ 自然に関心がない (継続して全属性で4点を超えている。)

(注) () は、令和2年県民意識調査における実感平均値。

② 分野別実感が一貫して低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 2 年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して低値（3 点未満）で推移している属性については、補足調査において「あまり感じない・感じない」と回答した理由から、表 3 のとおり要因が推測された。

表 3 分野別実感が一貫して低値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
余暇の充実	年代	30歳代	2.71～2.88	ア 自由な時間の確保
		40歳代	2.82～2.88	イ 知人・友人との交流
		50歳代	2.68～2.92	ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
	職業	常用雇 用者	2.82～2.89	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
	世帯 構成	2世代 世帯	2.80～2.98	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
	子の 人数	子ども はいな い	2.84～2.97	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
子育て	年代	20歳代	2.75～2.89	ア 子育て支援サービスの内容 イ 子どもの教育にかかる費用 ウ 子育てにかかる費用 エ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）
	世帯 構成	ひとり 暮らし	2.71～2.94	ア 子どもを預けられる場所の有無（保育所など） イ 子どもの教育にかかる費用 ウ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
	子の 人数	子ども はいな い	2.60～2.73	ア わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） イ 子どもの教育にかかる費用 ウ 子育てにかかる費用 エ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
子どもの教育	年代	20歳代	2.92~2.99	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 不登校やいじめなどへの対応 エ 図書館や科学館などの充実 オ わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)
	子の人数	子どもはいない	2.80~2.96	ア 学力を育む教育内容 イ 人間性、社会性を育むための教育内容 ウ 不登校やいじめなどへの対応 エ わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)
	居住年数	10年未満	2.78~2.95	ア 学力を育む教育内容 イ 学校の選択の幅(高校、大学など) ウ 地域での教育、学び
必要な収入や所得	会社役員・団体役員を除くすべての属性		2.15~2.92	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額

1 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 取締役	
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
ティー・キャン・ヘーン	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター副センター長	オブザーバー

※敬称略

2 令和2年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月21日(木)	第1回部会開催 (1) 部会長及び副部会長の選出について (2) 意見の聴取について (3) 県民の幸福感に関する分析部会について (4) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (5) 分野別実感の分析について
5月28日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月19日(金)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
7月29日(水)	第4回部会開催 (1) 分野別実感の分析について (2) 令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について
10月28日(水)	第5回部会開催 (1) 令和2年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(案)について (2) 県の施策に関する県民意識調査(補足調査)の見直しについて (3) 「幸福について考えるワークショップ」について
11月予定	第94回総合計画審議会で検討結果を報告

県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについて

1 目的

今年調査の結果を踏まえて、来年1月に実施する令和3年県民意識調査（補足調査）の見直しを検討するもの。

2 見直しの基本的考え方

調査項目の見直しについては、以下の基本的考え方に沿って検討した。

- ・ 調査の継続性を考慮して、今年調査において、回答に使用されなかった項目がないことから、基本的には今年実施した調査内容を踏襲
- ・ 今年実施した結果、社会経済情勢等を踏まえて、必要な追加を検討
- ・ 原則、回答項目の削除は行わないが、必要に応じて、回答項目を整理
- ・ 回答項目の整理に当たっては、基本的な調査項目を変更しないものの、新型コロナウイルス感染症による生活の変化に伴い、把握が必要な状態があれば、項目を検討
- ・ 状態は網羅されている場合には、追加として、新型コロナウイルス感染症の影響による変化を把握することで、変動要因を補足

3 検討結果

別紙参照

別紙 1

I 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた見直しの検討

1 検討のポイント

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響の把握に当たって、分野別実感の回答理由に係る設問を変更または追加すべきか。
- ② 分野別実感の回答理由に係る設問を変更しない場合、どのように新型コロナウイルス感染症の影響の把握するのか。

2 対応案

- ① 分野別実感の回答理由に係る設問については、現行の調査調査の継続性を踏まえ、項目等について原則変更しない。
- ② 新型コロナウイルス感染症による影響を尋ねる設問を新たに追加し、回答結果は、分野別実感の変動理由の分析を補足するものとして活用する。

○想定される設問イメージ

問 X

新型コロナウイルス感染症の影響について、あてはまるものに全て○をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 自由時間が増えた | 2 自由時間が減った |
| 3 人と話す機会が増えた（家族） | 4 人と話す機会が減った（家族） |
| 5 人と話す機会が増えた（家族以外） | 6 人と話す機会が減った（家族以外） |
| 7 外出機会が増えた | 8 外出機会が減った |
| 9 仕事時間が増えた | 10 仕事時間が減った |
| 11 在宅勤務の機会が増えた | |

○部会レポートへの反映イメージ

(1)「余暇の充実」の実感

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

ア 趣味・娯楽活動の場所・機会

イ 知人・友人との交流

上記理由を回答した方の多くが、新型コロナウイルス感染症の影響により「外出機会が減った」と回答しており、外出自粛の影響で趣味・娯楽活動や知人や友人との交流が十分にできなかったことが推測されます。

Ⅱ その他所要の見直しの検討

1 趣旨

政策評価における分野別実感への反映や回答者の負担等を踏まえ、一部見直しを行うもの。

2 修正案

「(8)地域の安全」の回答項目の整理

- ・ 他の設問とレベル感を調整し、同じカテゴリーの項目を統合
- ※ 自然災害については、発生件数の増加は施策上抑えられないので、防災体制の整備として整理し、それに類する項目を統合
 - 項目数が多いことから、項目数を削減することで、回答者の負担軽減も図られる。
- ・ 感染症の例示をやめて「感染症」に変更

別紙2 「県の施策に関する県民意識調査(補足調査)調査に係る分野別実感の要因を把握する設問項目検討一覧表

No.	分野別実感	分野別実感の要因を把握する設問	設問項目の追加・削除に係る検討			
			現項目の見直し	新型コロナウイルス感染症への対応	変更の有無	修正案
(1)-1 からだの健康						
	<p>あなたはからだが健康だと感じますか。</p> <p>0 わからない(該当しない)</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)</p> <p>2 スポーツの習慣の有無</p> <p>3 歩行などの行動の制限の有無</p> <p>4 食事の制限の有無</p> <p>5 健康診断の結果</p> <p>6 持病の有無</p> <p>7 ころの健康状態</p> <p>8 その他()</p>	無	無	無	
(1)-2 こころの健康						
	<p>あなたはこころが健康だと感じますか。</p> <p>0 わからない(該当しない)</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)</p> <p>2 仕事・学業におけるストレスの有無</p> <p>3 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無</p> <p>4 充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など)</p> <p>5 相談相手の有無</p> <p>6 からだの健康状態</p> <p>7 その他()</p>	無	無	無	

○県民意識調査(補足調査)の改訂の基本的考え方

① 令和2年から調査が開始されており、調査の継続性の観点から、「分野別実感の要因を把握する設問」については、大幅な変更を行わないが、政策を検討する上で必要な内容があれば、選択肢を追加する。

(新型コロナウイルス感染症の影響を含む社会経済情勢を踏まえて検討)

② 令和2年調査において、「分野別実感の要因を把握する設問」の選択肢で回答数が零となったものはないことから、選択肢の削除は行わない。

○留意事項

設問において「新型コロナウイルス感染症の影響」を明確にした場合、理由として選択されやすくなることから、その項目の理由として把握が必要な内容となるよう整理する必要がある。

No.	分野別実感	分野別実感の要因を把握する設問	設問項目の追加・削除に係る検討			
			現項目の見直し	新型コロナウイルス感染症への対応	変更の有無	修正案
(2) 余暇の充実						
	<p>あなたは余暇が充実していると感じますか。</p> <p>1 感じる 2 やや感じる 3 どちらともいえない 4 あまり感じない 5 感じない 6 わからない(該当しない)</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 自由な時間の確保 2 運動や行動の制限の有無 3 文化・芸術の鑑賞 4 スポーツ観戦 5 文化・芸術活動の場所・機会 6 スポーツの場所・機会 7 自然(山・海など)と触れ合う場所・機会 8 学習活動の場所・機会(生涯学習など) 9 地域や社会のための活動の機会(ボランティア等) 10 趣味・娯楽活動の場所・機会 11 家族との交流 12 知人・友人との交流 13 その他()</p>	無	無	無	<p>新型コロナウイルス感染症による影響はあるが、現在の項目は、その結果生じる要因として整理できるため、項目の追加はしない。</p>
(3) 家族関係						
	<p>あなたは家族と良い関係が取れていると感じますか。</p> <p>0 わからない(該当しない) 1 感じる 2 やや感じる 3 どちらともいえない 4 あまり感じない 5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 同居の有無 2 会話の頻度(多い・少ない) 3 一緒にいる時間(長い・短い) 4 家事分担のバランス 5 ペットの存在 6 自分が家族にもたらす精神的影響(貢献・負担) 7 自分が家族にもたらす経済的影響(貢献・負担) 8 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) 9 家族が自分にもたらす経済的影響(貢献・負担) 10 困った時に助け合えるかどうか 11 家族はいない 12 その他()</p>	無	無	無	<p>新型コロナウイルス感染症による影響はあるが、現在の項目は、その結果生じる要因として整理できるため、項目の追加はしない。</p>

No.	分野別実感	分野別実感の要因を把握する設問	設問項目の追加・削除に係る検討			
			現項目の見直し	新型コロナウイルス感染症への対応	変更の有無	修正案
(4) 子育て						
	<p>あなたは子育てがしやすいと感じますか。</p> <p>0 わからない(該当しない)</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)</p> <p>2 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)</p> <p>3 配偶者の家事への参加</p> <p>4 子育て支援サービスの内容</p> <p>5 子どもの教育にかかる費用</p> <p>6 子育てにかかる費用</p> <p>7 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)</p> <p>8 配偶者の就業状況(労働時間、休業・休暇など)</p> <p>9 自分の勤め先の子育てに対する理解</p> <p>10 配偶者の勤め先の子育てに対する理解</p> <p>11 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実</p> <p>12 子どもの遊び場(公園など)の充実</p> <p>13 子どもの習い事選択の幅</p> <p>14 わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていない)</p> <p>15 その他()</p>	無	無	無	
(5) 子どもの教育						
	<p>あなたは子どものためになる教育が行われていると感じますか。</p> <p>0 わからない(該当しない)</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 学力を育む教育内容</p> <p>2 人間性、社会性を育むための教育内容</p> <p>3 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容等)</p> <p>4 不登校やいじめなどへの対応</p> <p>5 学校の選択の幅(高校、大学など)</p> <p>6 図書館や科学館などの充実</p> <p>7 学校教育における地域学習</p> <p>8 地域での教育・学び</p> <p>9 わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていない)</p> <p>10 その他()</p>	無	無	無	

No.	分野別実感	分野別実感の要因を把握する設問	設問項目の追加・削除に係る検討			
			現項目の見直し	新型コロナウイルス感染症への対応	変更の有無	修正案
(6) 住まいの快適さ						
	<p>あなたは住まいに快適さを感じますか。</p> <p>0 わからない（該当しない）</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 住宅の延床面積（広さ・狭さ）</p> <p>2 居住形態（持ち家か借家か）</p> <p>3 住宅の安全性（耐震、耐火、浸水対策など）</p> <p>4 住宅の機能性（バリアフリー、室内の温熱環境など）</p> <p>5 立地の利便性（スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など）</p> <p>6 公共交通機関の利便性</p> <p>7 公園・緑地、水辺などの周辺環境</p> <p>8 周辺地域の街並み</p> <p>9 周辺地域の治安</p> <p>10 近隣の生活音</p> <p>11 近隣の生活臭</p> <p>12 周辺施設の機能性（バリアフリーなど）</p> <p>13 その他（ ）</p>	無	無	無	
(7) 地域社会とのつながり						
	<p>あなたは地域社会とのつながりを感じますか。</p> <p>0 わからない（該当しない）</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 その地域で過ごした年数</p> <p>2 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）</p> <p>3 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）</p> <p>4 学校・子ども会の活動への参加</p> <p>5 隣近所との面識・交流</p> <p>6 その他（ ）</p>	無	無	無	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、回答項目の活動が低調になっている理由であることから、新型コロナウイルス感染症を前提条件として、要因を把握する実感であるため変更しない。</p>

No.	分野別実感	分野別実感の要因を把握する設問	設問項目の追加・削除に係る検討			
			現項目の見直し	新型コロナウイルス感染症への対応	変更の有無	修正案
(8) 地域の安全						
	<p>あなたはお住まいの地域が安全だと感じますか。</p> <p>0 わからない(該当しない)</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 犯罪の発生状況</p> <p>2 地域の防犯体制(防犯パトロールなど)</p> <p>3 地域の防犯設備(街頭防犯カメラなど)</p> <p>4 交通事故の発生状況</p> <p>5 交通事故の防止(歩道の整備など)</p> <p>6 火災の発生状況</p> <p>7 火災に対する予防(消火栓の設置など)</p> <p>8 地域の防災体制(自治会・町内会の防災活動、消防団など)</p> <p>9 自然災害の発生状況</p> <p>10 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)</p> <p>11 災害に備えた行政の情報発信(避難箇所の周知など)</p> <p>12 災害発生時の行政の情報発信(避難放送、安否確認、被害状況の把握など)</p> <p>13 災害発生後の行政の対応(避難所の開設、支援、復興対策など)</p> <p>14 食の安全に関する行政の情報発信(食中毒の発生状況、食品添加物に関する情報など)</p> <p>15 感染症の予防に関する行政の情報発信(インフルエンザの発生状況、予防対策に関する知識の普及啓発など)</p> <p>16 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)</p> <p>17 地域の安全に関心がない</p> <p>18 その他()</p>	<p>有</p> <p>①回答項目が多く、同様の項目については統合する。 「地域の防犯体制」については、ソフト・ハードを分けているが、施策の実施に当たっては一体で対応を検討することから、政策分野の実感において、そこまで区別する必要はない。 「自然災害の発生状況」については、災害が多いことによる不安は理解するところであるが、災害は回避することができないため、防災体制と予防対策の整理することで、行政課題としての対応が可能となる。</p>	<p>有</p> <p>②例示の変更 「感染症の予防に関する行政の情報発信」の設問において、「インフルエンザ」を例示しているが、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、感染症名である「インフルエンザ」の例示を「感染症」に変更するもの</p>	<p>有</p> <p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 犯罪の発生状況</p> <p>2 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど)</p> <p>3 交通事故の発生状況</p> <p>4 交通事故の防止(歩道の整備など)</p> <p>5 火災の発生状況</p> <p>6 火災に対する予防(消火栓の設置など)</p> <p>7 地域の防災体制(自治会・町内会の防災活動、消防団など)</p> <p>8 自然災害に対する行政の防災体制(行政の情報発信、避難所支援、復興対策など)</p> <p>9 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)</p> <p>10 食の安全に関する行政の情報発信(食中毒の発生状況、食品添加物に関する情報など)</p> <p>11 感染症の予防に関する行政の情報発信(感染症の発生状況、予防対策に関する知識の普及啓発など)</p> <p>12 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)</p> <p>13 地域の安全に関心がない</p> <p>14 その他()</p>	

No.	分野別実感	分野別実感の要因を把握する設問	設問項目の追加・削除に係る検討			
			現項目の見直し	新型コロナウイルス感染症への対応	変更の有無	修正案
(9) 仕事のやりがい						
	<p>あなたは仕事にやりがいを感じますか。</p> <p>0 わからない（該当しない） 1 感じる 2 やや感じる 3 どちらともいえない 4 あまり感じない 5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 現在の職種・業務の内容 2 業種・業務の将来性 3 就業形態（正規・非正規など） 4 業務の量 5 現在の収入・給料の額 6 将来の収入・給料の額の見込み 7 収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など） 8 現在の役職（職場での地位） 9 将来の役職の見込み 10 職場の人間関係 11 職場環境（オフィスの立地など） 12 職種・業務に対する周囲の評価 13 失業・倒産・廃業等のリスク（安定性） 14 専業主婦（主夫）・家事手伝いである 15 元々仕事をしていない（学生など） 16 以前仕事をしていたが、今はしていない 17 その他（ ）</p>	無	無	無	無
(10) 必要な収入や所得						
	<p>あなたは必要な収入や所得が得られていると感じますか。</p> <p>0 わからない（該当しない） 1 感じる 2 やや感じる 3 どちらともいえない 4 あまり感じない 5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 自分の収入・所得額（年金を含む） 2 家族の収入・所得額（年金を含む） 3 自分の支出額 4 家族の支出額 5 自分の金融資産の額 6 家族の金融資産の額 7 自分の借金の額 8 家族の借金の額 9 生活の程度 10 その他（ ）</p> <p>(注)金融資産…預貯金や有価証券等</p>	無	無	無	無

No.	分野別実感	分野別実感の要因を把握する設問	設問項目の追加・削除に係る検討			
			現項目の見直し	新型コロナウイルス感染症への対応	変更の有無	修正案
(11) 歴史・文化への誇り						
	<p>あなたは地域の歴史や文化に誇りを感じますか。</p> <p>0 わからない（該当しない）</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 その地域で過ごした年数</p> <p>2 世界遺産があること</p> <p>3 地域のお祭り・伝統芸能</p> <p>4 地域の文化遺産・街並み</p> <p>5 郷土の歴史的偉人</p> <p>6 地域の文化・芸術分野の著名人</p> <p>7 地域の食文化</p> <p>8 地域での文化継承・保存活動</p> <p>9 地域の歴史についての教育機会</p> <p>10 地域に対する周囲の評判</p> <p>11 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない</p> <p>12 地域の歴史や文化に関心がない</p> <p>13 その他（ ）</p>	無	無	無	<p>本実感においては、誇りを感じる対象を整理しており、新型コロナウイルス感染症による変更は必要ない。</p>
(12) 自然のゆたかさ						
	<p>あなたは自然に恵まれていると感じますか。</p> <p>0 わからない（該当しない）</p> <p>1 感じる</p> <p>2 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>4 あまり感じない</p> <p>5 感じない</p>	<p>そのように回答した理由として、関連の強い要因全てに○をつけてください。</p> <p>1 緑の量(豊か・少ない)</p> <p>2 空気の状態(綺麗・汚い)</p> <p>3 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)</p> <p>4 海の状態(綺麗・汚い)</p> <p>5 多様な動植物の生息</p> <p>6 公園・緑地、水辺などの周辺環境</p> <p>7 自然(山・海など)と触れ合う機会</p> <p>8 地域での自然保護活動</p> <p>9 自然に関心がない</p> <p>10 その他（ ）</p>	無	無	無	<p>本実感においては、新型コロナウイルス感染症の影響による大きな変更は必要ない。</p>

「幸福について考えるワークショップ」について

1 目的

自分の幸福を「見える化」し、みんなで共有し、幸福を高めるためには何ができるのかを議論する。

その中で、県の施策に関する県民意識調査の動向及び補足調査の結果から得られた「分野別実感が低下した理由」を説明し、その具体的な内容をイメージ等についても議論し、評価のより良い改善に資する。

2 実施期間

令和3年4月～6月

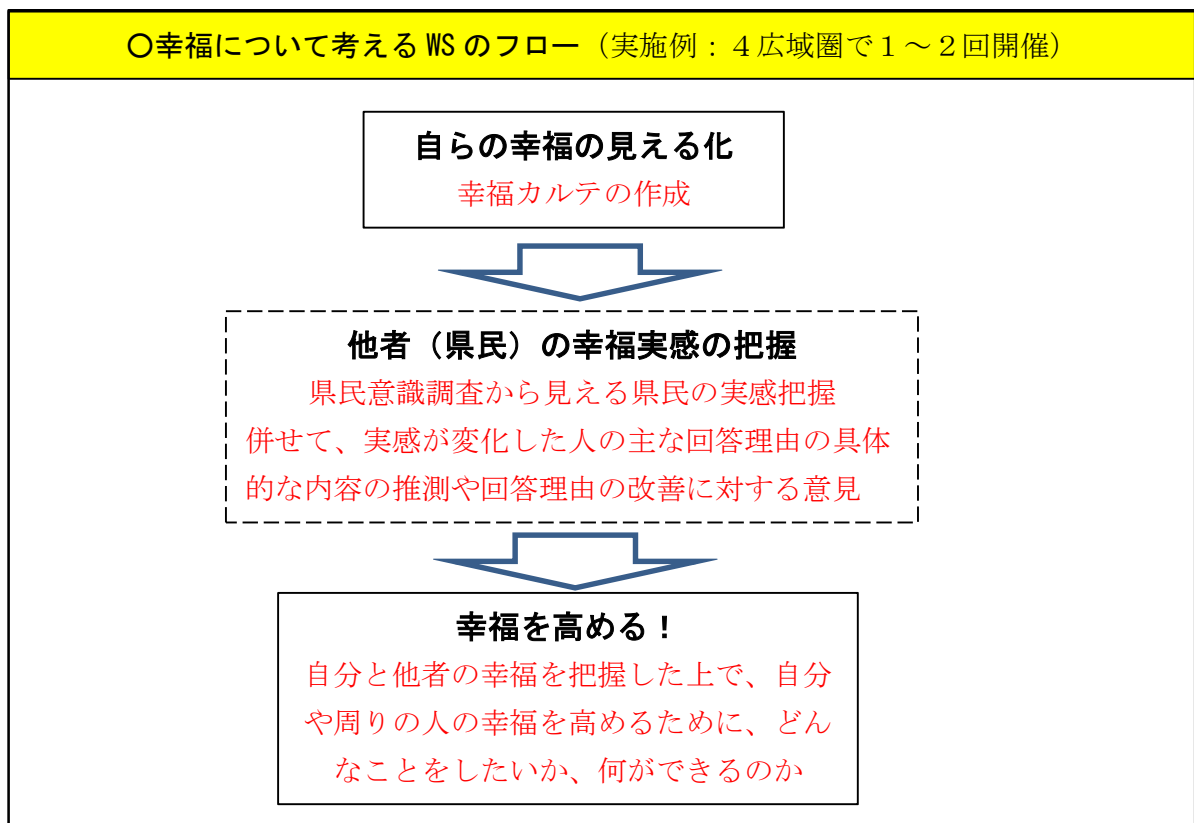
3 実施内容

- ① 自分の幸福カルテの作成
- ② 県の特徴の把握（県民意識調査及び補足調査）
- ③ 他者（県民）の幸福実感の把握
- ④ 幸福を高めるために何ができるのか意見交換

4 ワークショップ対象者の選定方法

- ① 基準年（H31）と当該年（令和3年）で分野別実感が低下した分野
- ② ①について、属性別分析を行い、一番大きく実感が低下している属性

○幸福について考えるWSのフロー（実施例：4広域圏で1～2回開催）



令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」の開催予定等について

開催時期等		主な審議内容等（予定）
4月～ 5月	—	・ 県民意識調査及び補足調査の集計等
5月	第1回	・ 県民意識調査及び補足調査結果を踏まえた分野別実感の変動要因の検討①
6月	第2回	・ 県民意識調査及び補足調査結果を踏まえた分野別実感の変動要因の検討②
7月	第3回	・ 県民意識調査及び補足調査結果を踏まえた分野別実感の変動要因の検討③ ・ 年次レポート素案 ※政策評価に活用
10月	第4回	・ 年次レポート決定 ・ 翌年度の活動計画等
11月	—	・ 総合計画審議会に報告

幸福について考えるワークショップ



手引き



手引きの目的

この手引きは、県民の皆さんが幸福について考えるためのきっかけとして、どんな場面でも「幸福について考えるワークショップ」を行っていただけるように、その手順等をまとめたものです。

様々な場面に合わせてアレンジしていただき、ワークショップが、皆さんの幸福のヒントを見つけるきっかけになれば幸いです。

目次

1	趣旨と背景	
1-1	ワークショップの趣旨	1
1-2	このワークショップが考えられた背景	1
2	ワークショップを始めるにあたって	2
3	ワークショップの手順	3
	ワークショップで使用する資料	5

1. 趣旨と背景

1-1 ワークショップの趣旨

- このワークショップは、自分が「どのようなことに幸福を感じているか」を知り、「もっと幸福を高めるにはどうすればいいか」を考えるきっかけとなることを目的にしています。
- 岩手県のいいところや悪いところなども見つめなおし、幸福のヒントをみんなで探してみましよう。

1-2 このワークショップが考えられた背景

◆岩手県では、「幸福」を、未来を考えるキーワードの1つにしています。

岩手県では、収入などの経済的なゆたかさだけでなく、地域ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさが大切という考え方から、「幸福」を、未来を考えるキーワードの1つにしています。そのため、「岩手の幸福に関する指標」研究会を設置し、幸福の研究を進めてきました。

◆平成 29 年 9 月に、「岩手の幸福に関する指標」についての報告書が取りまとめられました。

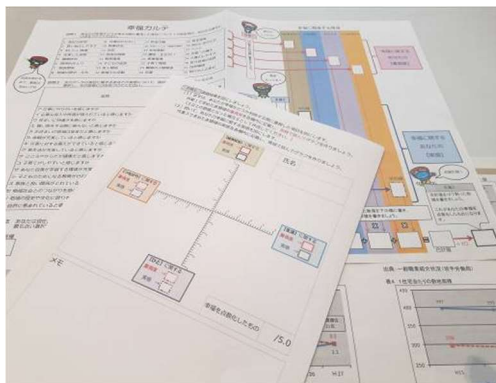
「幸福」といえばブータンが有名ですが、近年は、国際機関や内閣府などでも研究が進められています。また、東京都荒川区や熊本県など「幸福」という考え方を行政に取り入れているところも増えてきています。

研究会では、そういった研究やアンケート調査などを踏まえ、仕事や家庭などの「幸福」に関する要素やそれを政策に活かす方法などについて、平成 29 年 9 月に報告書を取りまとめました。

◆「幸福を考えるとところから幸福は始まる」

研究会では、県民の幸福という観点からは、幸福について理論的・体系的に整理するだけでなく、県民一人ひとりが「幸福」について考えることが大切との意見が出されました。

そこで、研究会と岩手県が一緒になって、多くの人の協力をいただきながら、自分の幸福や周りの人の幸福を考えるきっかけとなるワークショップを考えました。



2. ワークショップを始めるにあたって

ワークショップの概要と、事前に準備するものなどは以下の通りです。

概要

1 自分の幸福を「見える化」し、みんなで共有する。

まず、参加者は、手順に従って「幸福カルテ」を作成します。

幸福カルテは、幸福感に関連する12の領域を、わかりやすさの観点から「経済状況」「生活」「ひと」「関係性」の4つにわけ、自分の幸福を「見える化」するものです。

そして、その結果をみんなで共有したり、比較したりすることで、自分の幸福にとって重要な要素や要因が何なのか、改めて考えてみます。

2 幸福を高めるためにはどうするか、みんなで考える。

自分の幸福や周りの人の幸福を高めるためにはどんなことがしたいか、みんなで話し合います。岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところなどを模造紙に書き出しながら、自分にできること、より良い生活につながることを考えてみましょう。

ワークショップを始める前に

○ 人数

「幸福カルテ」は1人でも作れますが、2人以上で取り組んだ方が誰かと比較することで自分の特性をより知ることができます。

また、参加人数が多くなる場合は、5～6人を目安に班に分かれて行いましょう。(班は、幸福カルテの特徴などで分けても盛り上がるかもしれません。)

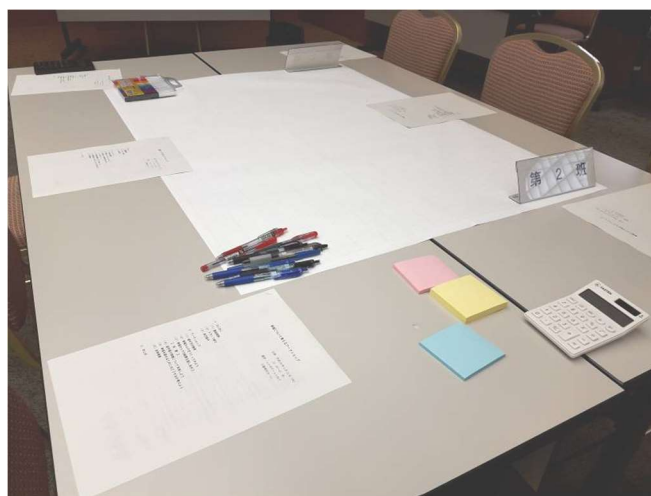
○ 時間

時間は、概ね2時間から3時間を想定していますが、参加者に応じてアレンジしてください。

例えば、前半の「幸福カルテ」の作成と共有だけを行う短縮バージョンなら、1時間程度で行うこともできます。

○ 準備するもの

- ・この手引き(人数分)
- ・幸福カルテ(人数分)
- ・模造紙(班の数分)
- ・4色の付箋(人数×10枚程度)
- ・赤と青のペン(人数分)
- ・電卓(できれば人数分)
- ・ホワイトボード(できれば)



3. ワークショップの手順

※ (1) ~ (5)、(8) だけを行うことで、短縮バージョン (1時間) のワークショップも可能です。

(1) 開会・趣旨説明 5分/計5分

[ポイント]全体の司会(コーディネーター)を決めておきましょう。

(2) 進め方の説明 10分/計15分

(3) 各班に分かれて自己紹介 5分/計20分

(4) 手順① 自分の幸福カルテをつくってみよう 15分/計35分

- 1) 幸福カルテを記入する。
- 2) 集計する。
- 3) 集計グラフをつくる。

まずは、個人作業です。

[ポイント]幸福カルテに書いてある手順に沿って、グラフまで作ってみましょう。

資料2に計算早見表もつけていますので、参考にしてください。

(5) 手順② 幸福カルテの結果を見せ合おう・比べてみよう 20分/計55分

- 1) 自分のグラフの特徴をチェックし、理由を考える。
- 2) 自分のグラフの特徴を班で発表して話し合う。

班で話し合います。

[ポイント]グラフの特徴が自分の思っていたものと違っていたら、その理由を考えてみましょう。

幸福の感じ方は人それぞれですので、点数より、グラフの特徴に着目してください。

ニックネームを付け合っても盛り上がるかもしれません。

(6) 岩手県の数値的な特徴を知ろう 10分/計65分

誰かが読み上げます。

[ポイント]一度視点を自分の置かれている環境や周りの人に移してみましょう。

資料3に参考データを載せていますが、参加者などに応じてアレンジしましょう。

(7) 「幸福を高めるためには何ができるか」の模造紙をつくろう 30分/計95分

- 1) 各自で「自分や周りの人の幸福を高めるために、どんなことがしたいか？」を付せんに書き出す(1人5枚以上!)
- 2) 上記1)で出したアイデアを実現するに当たって、岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところを色の違う付せんに書き出す(思いつく範囲で!)
- 3) 付箋を1人ずつ読み上げながら、模造紙に貼る。
- 4) 似ているものをまとめ、見出しを付ける。
- 5) 「さらに幸福を高めるためには何ができるか」を付箋に書き、模造紙に貼る。

再び班作業

[ポイント] 普段思っていることや幸福カルテをやって気づいたことを何でも書き出しましょう。

5)は、1)や2)で書いたものを参考にしてもいいですし、個人的なことでも構いません。

1)、2)、5)で使う付せんは、それぞれ別の色を用いるとわかりやすいです。

※例: 1)の付せんは緑色、2)の岩手が優れているところは青色、岩手で改善すべきところは赤色、5)の付せんは黄色にするなど。



(8) 「私の幸福宣言」を書いてみよう

5分/計100分

幸福カルテやみんなで話した内容を思い返しながらか、「資料4 私の幸福宣言」を書く。

[ポイント] 今日からできそうなこと、できたら面白そうなことなどを書いてみましょう。

自分だけでなく、周りの人を幸せにするための宣言でも構いません。

(9) 全体発表

15分/計115分

班ごとに発表者を決め、2~3分程度で(7)で作成した模造紙や「私の幸福宣言」を発表する。

(10) まとめ

5分/計120分

司会(コーディネーター)が全体の総括を行う。

ワークショップで使用する資料

- 資料1 幸福カルテ
- 資料2 幸福カルテ早見表
- 資料3 岩手県の特徴（統計データ（参考））
- 資料4 私の幸福宣言

幸福カルテ

設問Ⅰ あなたが幸福かどうか考える際に重視した項目について10項目選び、該当する番号に○印をつけてください。

1 家計の状況	9 仕事のやりがい	17 貯金の額	25 居住環境
2 買い物のしやすさ	10 就業状況	18 生活インフラ（道路交通等）	26 街のにぎやかさ
3 おいしい食事	11 治安	19 社会貢献	27 ペット
4 充実した余暇	12 自由な時間	20 趣味・生きがい	28 災害への備え
5 健康状況	13 教育環境	21 医療環境	29 介護のしやすさ
6 精神的ゆとり	14 子どもの成長	22 子育て環境	30 自分自身の成長
7 家族関係	15 友人関係	23 職場の人間関係	31 自然環境
8 地域の歴史・文化	16 地域での活動	24 恋愛	32 周りの人の幸せ



回答が終わる
まで、裏面は
見ないでね

設問Ⅱ 次のア～タの項目に関するあなたの実感について、選択肢の中から最も近いものを選択し、その数値に○印をつけてください。

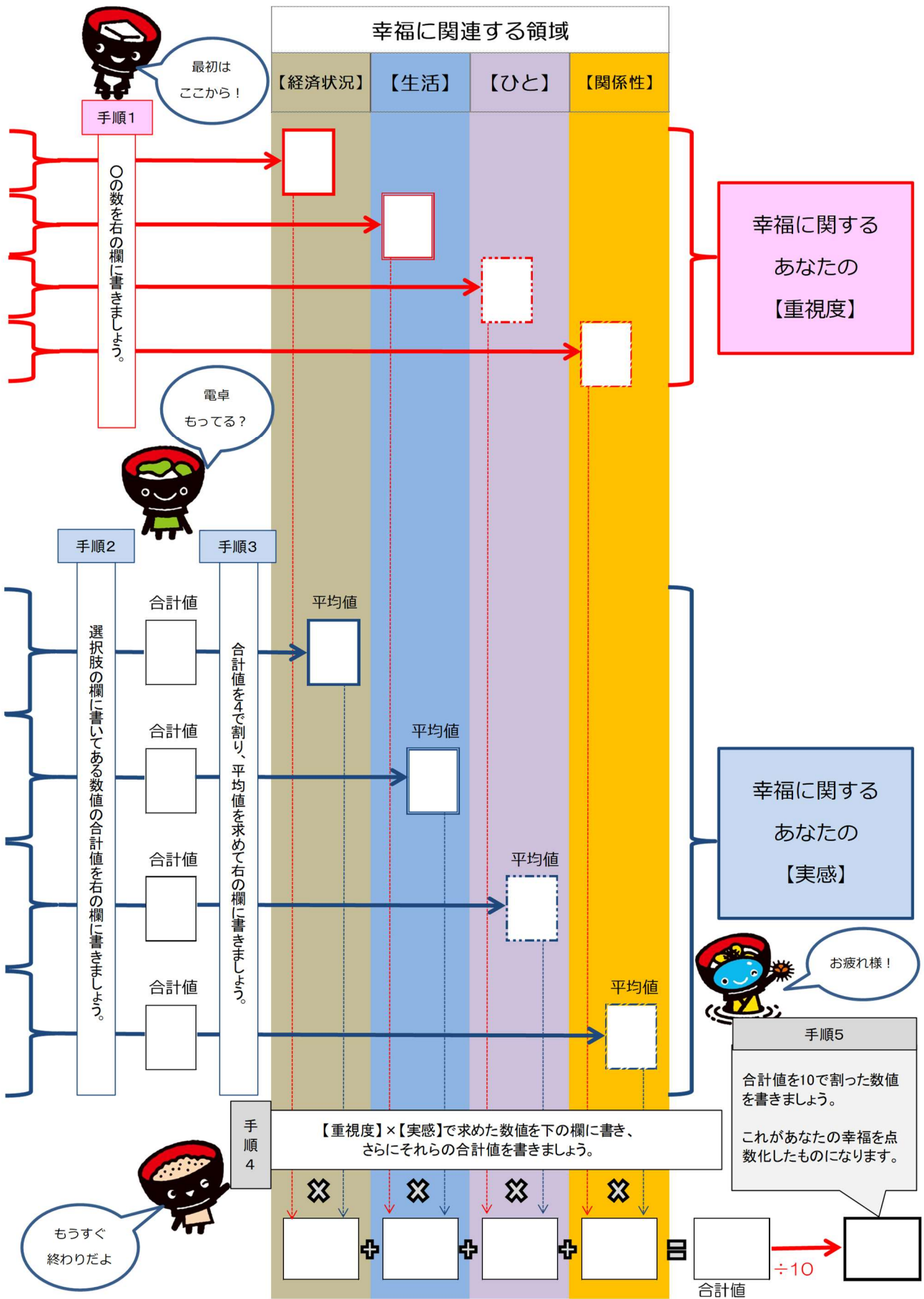
設問	選択肢				
	感じる	感じる やや	どちらとも いえません	あまり 感じない	感じない
ア 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1
イ 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1
ウ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1
エ 買い物をする際に困らないと感じますか	5	4	3	2	1
オ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1
カ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
キ 災害に対する備えができていますと感じますか	5	4	3	2	1
ク 食生活が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
ケ こころやからだ健康だと感じますか	5	4	3	2	1
コ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1
サ あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
シ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1
ス 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1
セ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1
ソ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1
タ 自然に恵まれていると感じますか	5	4	3	2	1

設問Ⅲ あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
最も近い選択肢の数値を書いてください。

回答欄

選択肢

5 幸福だと感じている	2 あまり幸福だと感じていない
4 やや幸福だと感じている	1 幸福だと感じていない
3 どちらともいえない	



手順6 調査結果を図にしましょう。

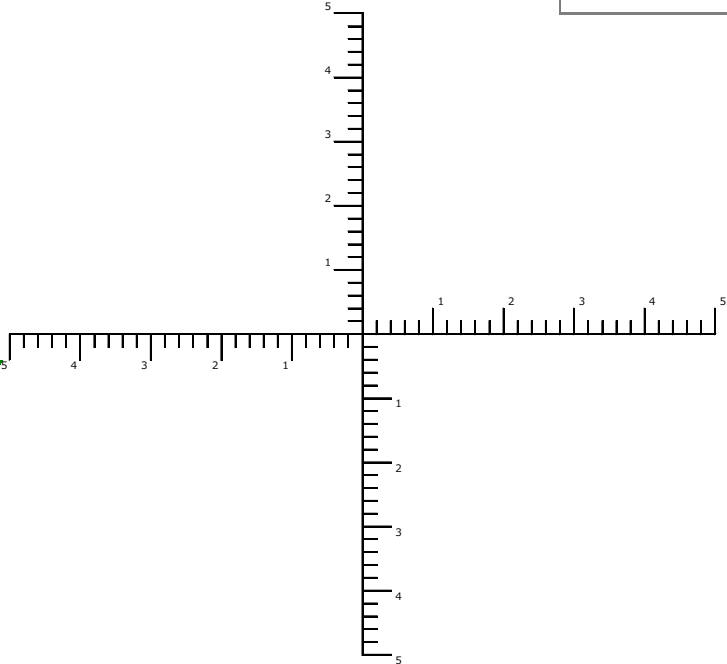
(1) まずは、あなたが幸福かどうか判断する際に重視した項目を図にします。

手順1で求めた各領域の**重視度**を各欄内に記載し、**赤線で結んで**グラフを作りましょう。

(5以上の数値となった場合5として作成してください。)

(2) 続いて、あなたの幸福に関する**実感**を図にします。

手順3で求めた各領域の**実感**を各欄内に記載し、**青線で結んで**グラフを作りましょう。

【経済状況】に関する 重視度 → <input type="text"/> 実感 → <input type="text"/>		氏名	
【関係性】に関する 重視度 → <input type="text"/> 実感 → <input type="text"/>			
【ひと】に関する 重視度 → <input type="text"/> 実感 → <input type="text"/>			
		幸福を点数化したもの	/5.0

メモ

【経済状況】

収入、仕事、居住環境など、経済的な項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【家計の状況】【就業状況】【交通の便利さ】【買物のしやすさ】【街のにぎやかさ】などを重視しています。

【経済状況】に関する

重視度 → 4

実感 → 1.8

経済状況の重視度が高いにも関わらず、実感が低いことがわかります。
経済状況に関する項目の実感を上げることが幸福につながるかもしれません。

【関係性】に関する

重視度 → 2

実感 → 3.0

【関係性】

家族、地域とのつながり、歴史・文化、自然環境など、まわりとの関係で構成される領域です。

この領域が高い人は【家族や友人とのつながり】【地域住民とのつながり】【職場の人間関係】【地域での活動】【自然環境や歴史文化】【周りの人の幸せ】などを重視しています。

【生活】

安全、余暇など、金銭では表しにくい生活の状態に関する項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【治安の良さ】【自由時間の多さ】【充実した余暇】【趣味・生きがい】【おいしい食事】【災害への備え】などを重視しています。

【生活】に関する

重視度 → 1

実感 → 4.0

生活領域の実感が高いのですが、重視度が低いことがわかります。
この場合、生活領域に目を向けてみると、気づきがあるかもしれません。

【ひと】に関する

重視度 → 3

実感 → 3.5

【ひと】

健康、子育て、教育など、個人の状態や成長などに関する項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【心身の健康】【成長の実感】【医療の受けやすさ】【子どもの成長】【子どもや自分の教育】などを重視しています。

ポイント

- ・自分の幸福にとって重要な要素を見直してみましょう。
- ・極端に高い項目や低い項目があった人は、改めて全体を見てみると、気づきがあるかもしれません。
- ・各領域の重視度（ウエイト）と実感の差を見てみましょう。
- ・他の人のグラフと比べてみて、感想を伝えてみましょう。
- ・幸福につなげるためには、どうすれば良いか考えてみましょう。

幸福カルテ 早見表



重視度

0	1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---	---

合計値

4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

平均値

1
1.25
1.5
1.75
2
2.25
2.5
2.75
3
3.25
3.5
3.75
4
4.25
4.5
4.75
5

0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	1.3	2.5	3.8	5	6.3	7.5	8.8	10
0	1.5	3	4.5	6	7.5	9	10.5	12
0	1.8	3.5	5.3	7	8.8	10.5	12.3	14
0	2	4	6	8	10	12	14	16
0	2.3	4.5	6.8	9	11.3	13.5	15.8	18
0	2.5	5	7.5	10	12.5	15	17.5	20
0	2.8	5.5	8.3	11	13.8	16.5	19.3	22
0	3	6	9	12	15	18	21	24
0	3.3	6.5	9.8	13	16.3	19.5	22.8	26
0	3.5	7	10.5	14	17.5	21	24.5	28
0	3.8	7.5	11.3	15	18.8	22.5	26.3	30
0	4	8	12	16	20	24	28	32
0	4.3	8.5	12.8	17	21.3	25.5	29.8	34
0	4.5	9	13.5	18	22.5	27	31.5	36
0	4.8	9.5	14.3	19	23.8	28.5	33.3	38
0	5	10	15	20	25	30	35	40

(例) 平均値が
1.75で、重視度
が3の場合、手
順4の数値は5.3
となります。

重視度

0	1	2	3
---	---	---	---

平均値

1	0	1	2	3
1.25	0	1.3	2.5	3.8
1.5	0	1.5	3	4.5
1.75	0	1.8	3.5	5.3
2	0	2	4	6

①手順2で
書いた合計
値の右側に
スライドす
ると・・・

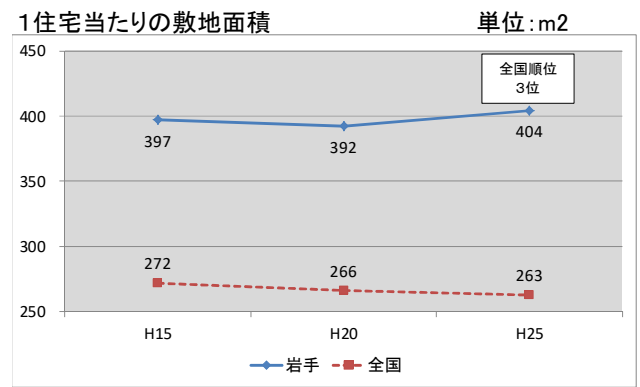
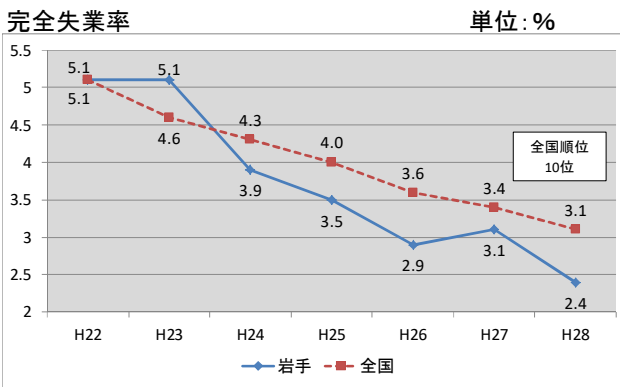
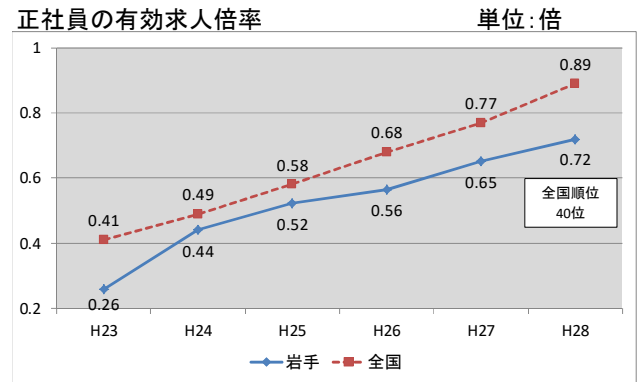
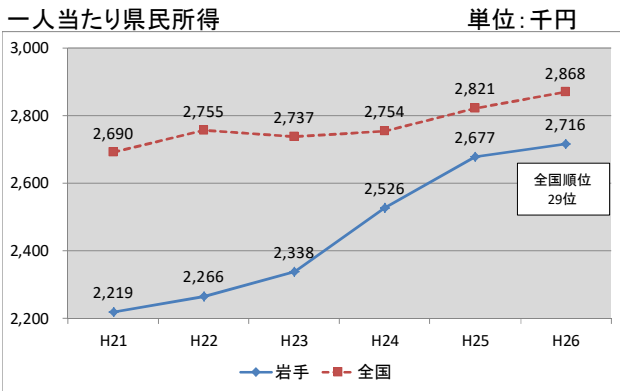
②手順3の
平均値
が出ます！

③手順3で出した平均
値と、手順1で出した
重視度が重なるマス
を見ると、手順4の数
値がわかります！

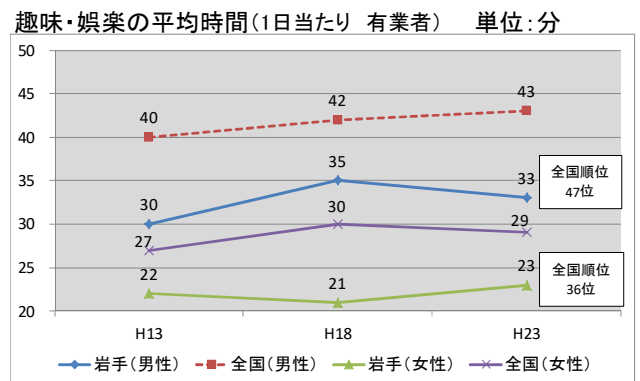
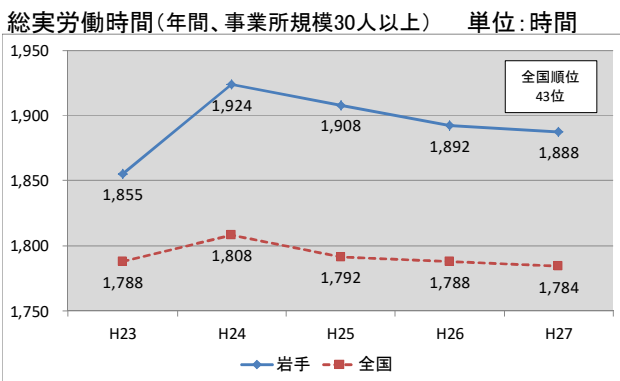
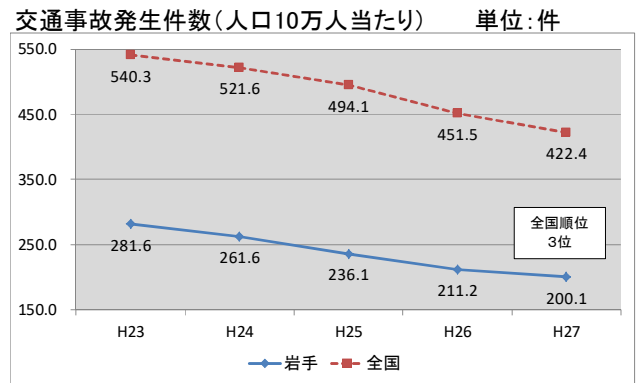
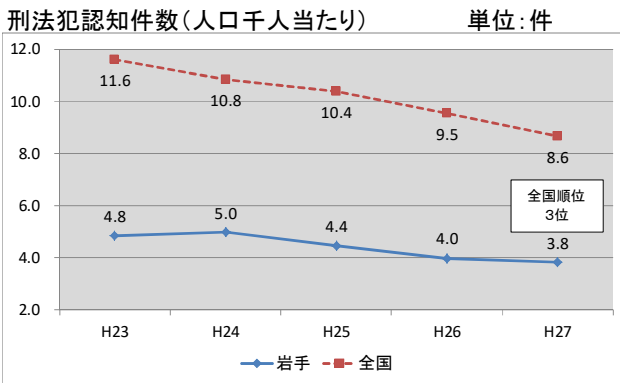


資料3 岩手県の特徴（統計データ（参考））

【経済状況】に関する統計データ



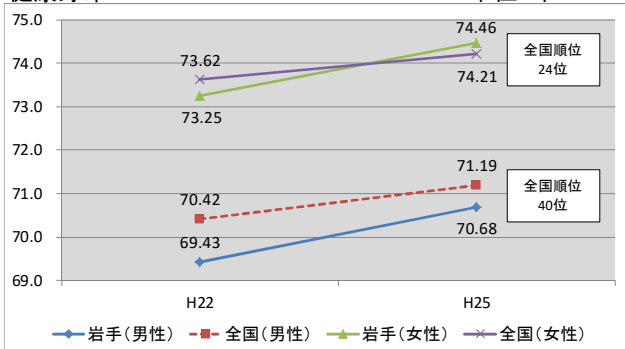
【生活】に関する統計データ



【ひと】に関する統計データ

健康寿命

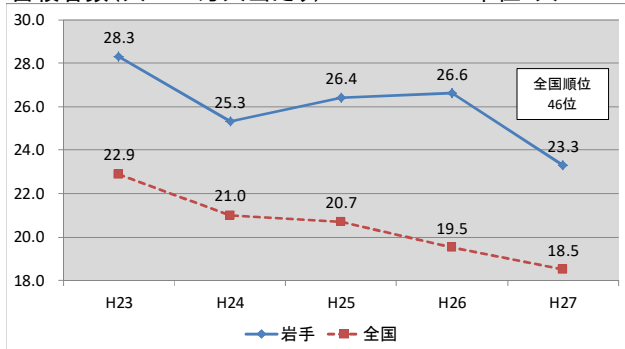
単位：年



出典：健康寿命の指標化に関する研究(厚生労働科学研究費補助金)

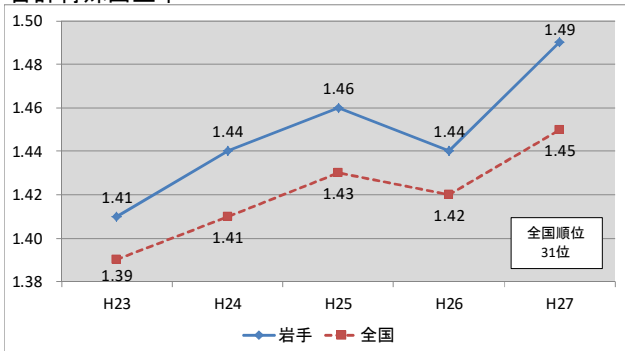
自殺者数(人口10万人当たり)

単位：人



出典：いわて統計白書(岩手県調査統計課)

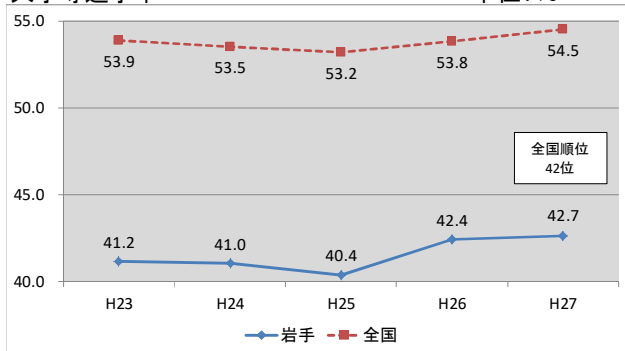
合計特殊出生率



出典：人口動態統計(厚生労働省)

大学等進学率

単位：%

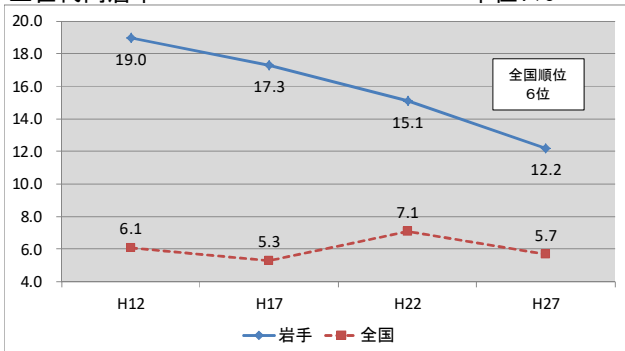


出典：いわて統計白書(岩手県調査統計課)

【関係性】に関する統計データ

三世同居率

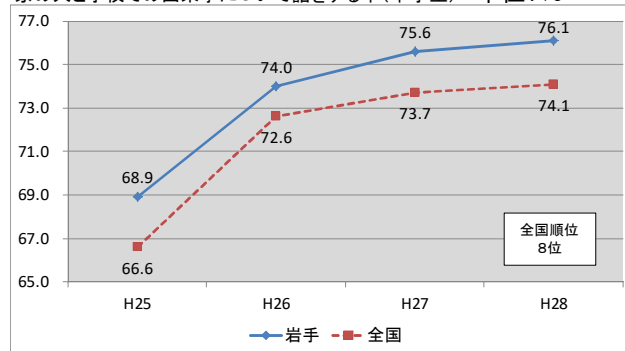
単位：%



出典：国勢調査(総務省統計局)

家の人と学校での出来事について話をする率(中学生)

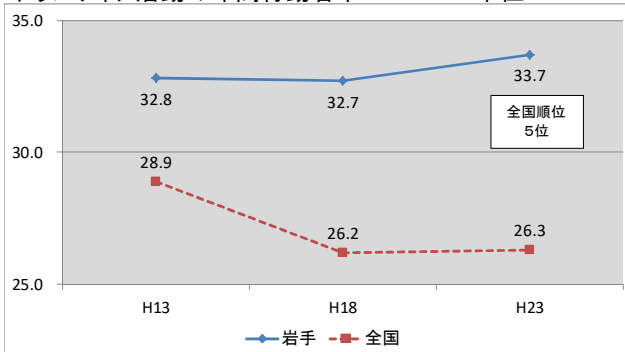
単位：%



出典：全国学力・学習状況調査(文部科学省)

ボランティア活動の年間行動者率

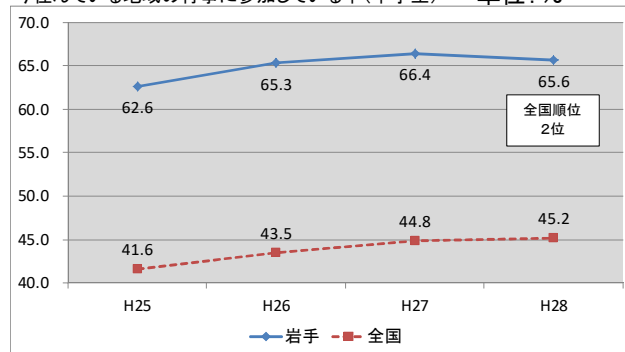
単位：%



出典：社会生活基本調査結果(総務省統計局)

今住んでいる地域の行事に参加している率(中学生)

単位：%



出典：全国学力・学習状況調査(文部科学省)

私は、 _____ の

幸福を高める

ために

をします